

3.2 事業対象者層を調査対象とした個別事業評価

事業対象者層を調査対象とした個別事業評価については、事業ごとの調査票で調査を実施した。調査対象、回収率、回答者の属性については、各事業の調査結果に記載する。

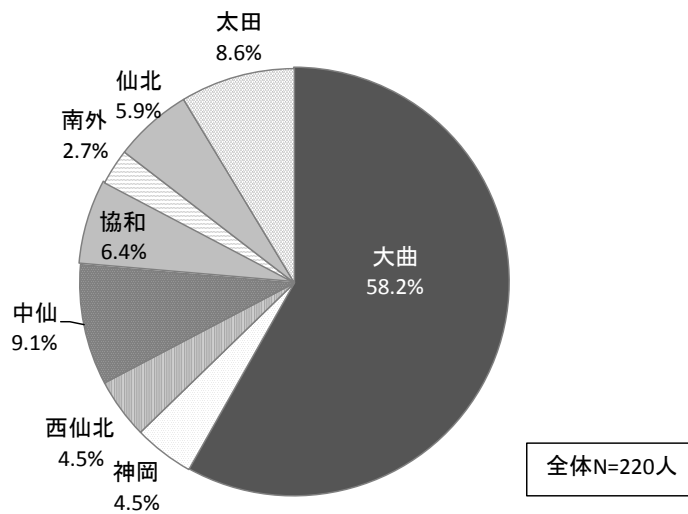
3.2.1 母子保健事業について

(健康福祉部健康増進センター)

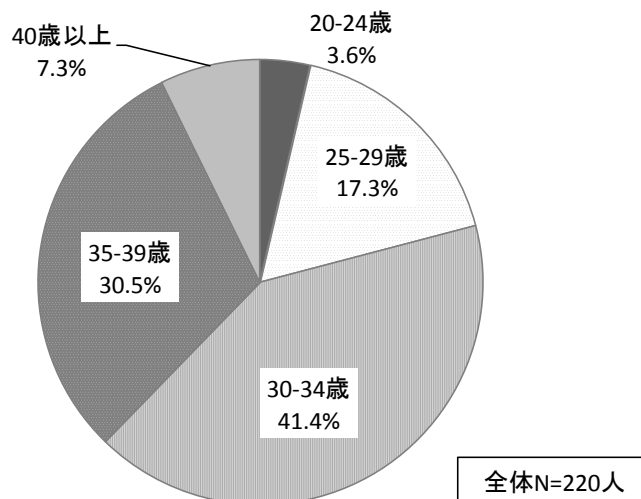
- ◆ **調査目的**：妊娠期から子育て期の切れ目ない支援を行うために平成31年度に「子育て世代包括支援センター」を設置する予定であることを踏まえ、0歳から2歳の乳幼児を持つ母親の妊娠期・育児期の困りごとや、現事業の認知度等を調査する。
- ◆ **調査対象**：市内在住の「0歳児（H29.4.1～H30.3.31生まれ）」「1歳児（H28.4.1～H29.3.31生まれ）」「2歳児（H27.4.1～H28.3.31生まれ）」の母親から、無作為に抽出した300人
- ◆ **回収数・回収率**： 回収数 220 回収率 73.3%

回答者の属性

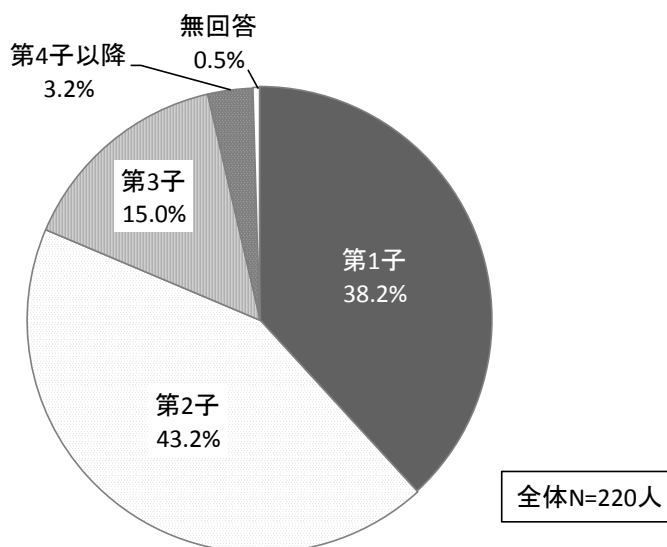
【地域】



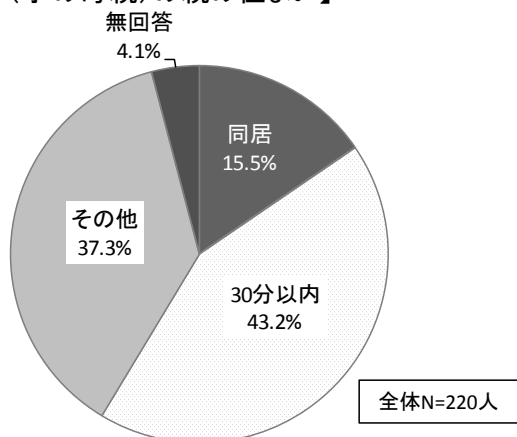
【年齢】



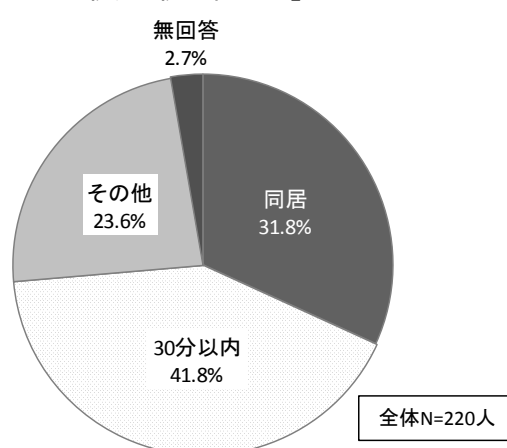
【対象の子(H27年4月～H30年3月生、一番下の子)は第何子か】



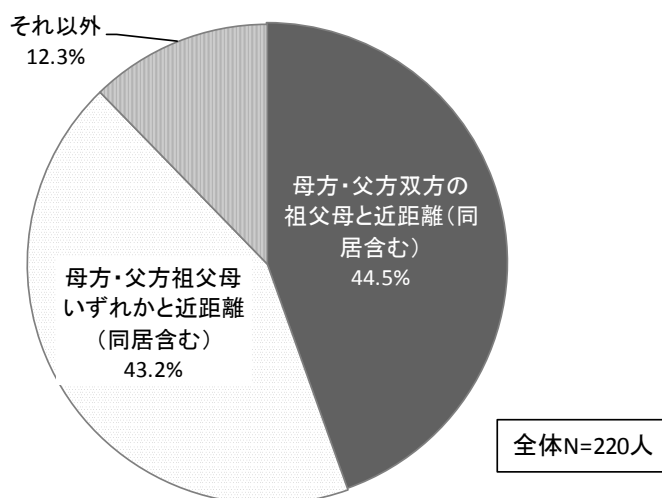
【自分(子の母親)の親の住まい】



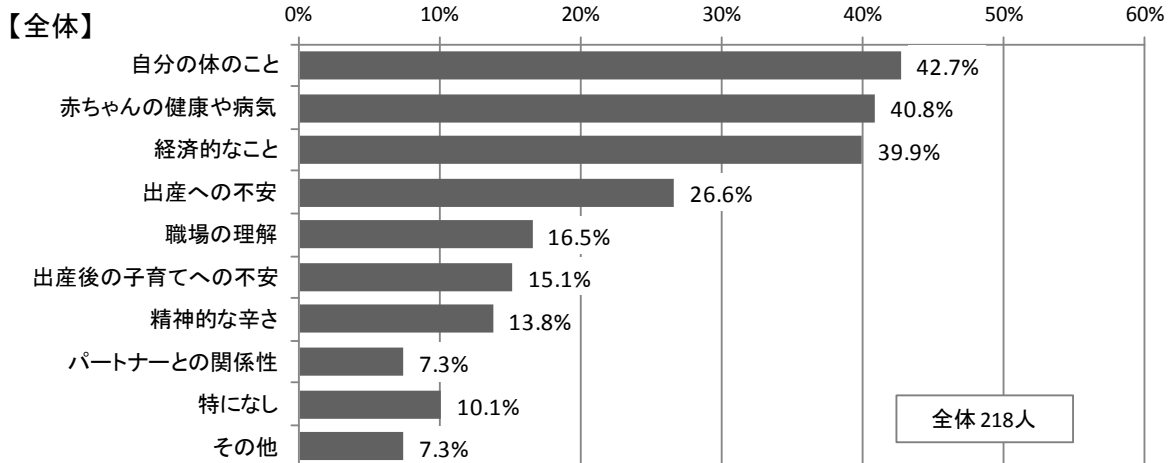
【夫(子の父親)の親の住まい】



【属性 問4より 子の祖父母の住まいについて】



【問1】あなたが、妊娠中特に困ったことや不安に感じたことは何ですか。（最大3つ）



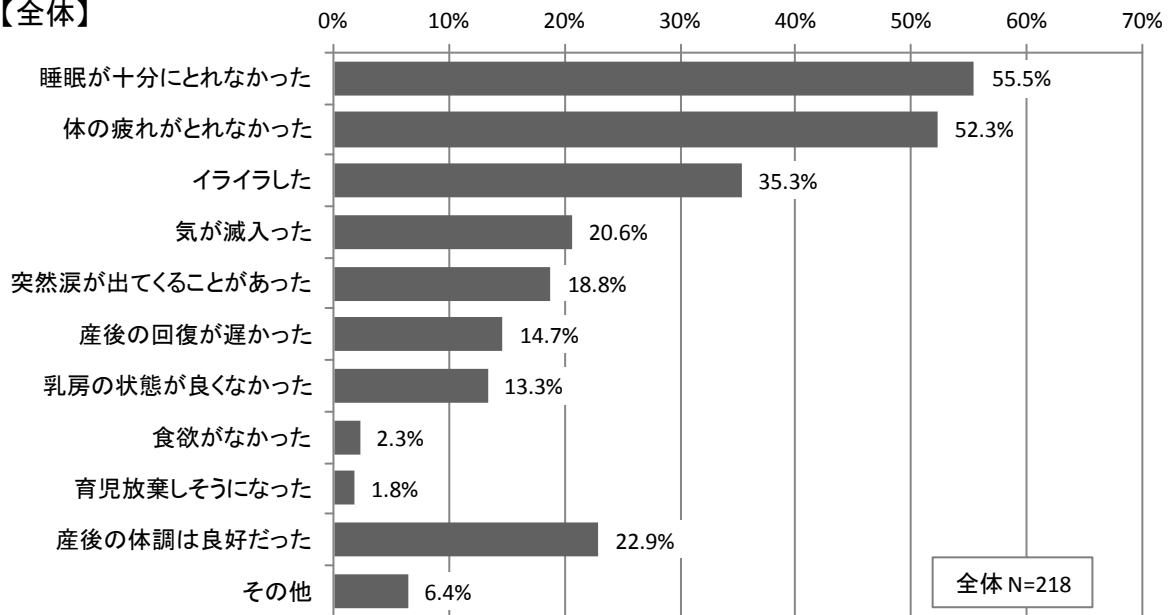
■ その他意見

- ・ もし切迫等で入院になったときの上の子の園の送迎や日常生活（30-34歳／第二子）
- ・ 上の子どものこと（40歳以上／第二子）
- ・ 同居の夫の両親の協力が足りなくて大変だった。夫の単身赴任でいなかった。（30-34歳／第三子）
- ・ つわりが辛かった（25-29歳／第一子）
- ・ 毎日のご飯の支度（35-39歳／第三子）
- ・ 実家のこと（30-34歳／第三子）
- ・ 姑、姑の母との関係（35-39歳／第一子）
- ・ 無痛分娩に理解が得られるかどうか、希望の産院で出産できるかどうか（30-34歳／第一子）
- ・ 上の子の世話（30-34歳／第二子）
- ・ 上の子がだっこと言い、おなかに負担がかかるため、あまりできなかったこと（35-39歳／第二子）
- ・ 切迫早産（30-34歳／第二子）
- ・ 上の子を連れての検診が大変だった（30-34歳／第二子）
- ・ 近くに親戚が住んでいないため、産後の生活や保育園に関しての不安があった。（30-34歳／第二子）
- ・ 転勤族だったため、頼るところが少ない。二人目となると自分のことだけではないため大変。（35-39歳／第二子）
- ・ 妊娠中の上の子の育児（30-34歳／第三子）
- ・ 出産後の家事、上の子の育児（35-39歳／第二子）

○「自分の体のこと」が最も多く42.7%、続いて「赤ちゃんの健康や病気に関すること」が40.8%、「経済的なこと」が39.9%となっている。

【問2】あなたの産後の体調について、あてはまるものはどれですか。（複数回答可）

【全体】



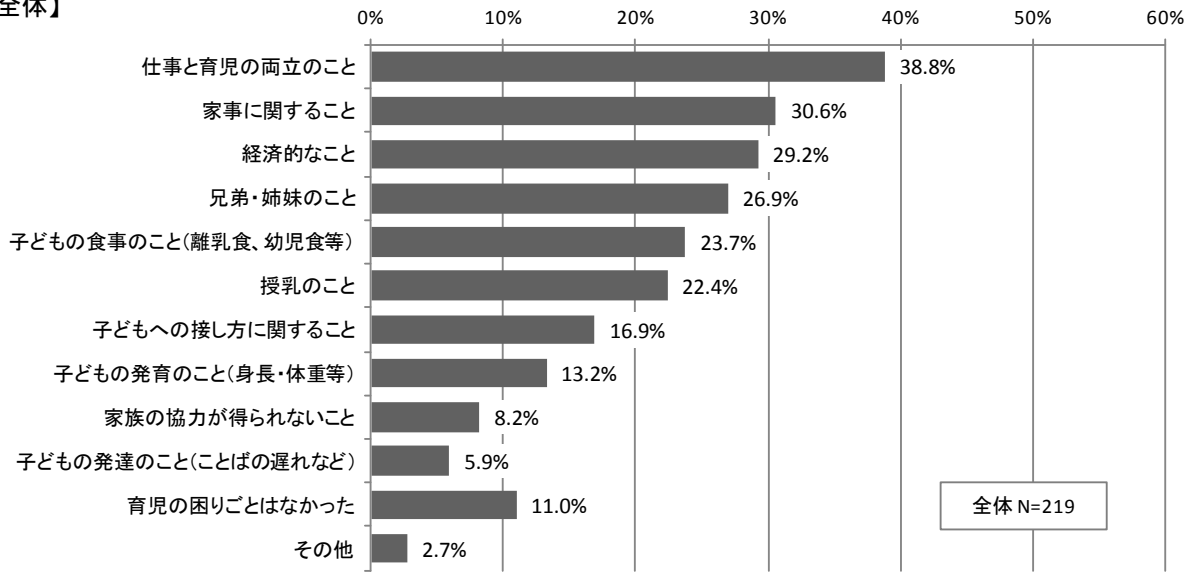
■その他意見

- ・ 指先のしびれがあった（35-39歳／第一子）
- ・ 腰痛があった（35-39歳／第一子）
- ・ 血圧が下がらない（30-34歳／第二子）
- ・ 母乳があまり出なかった（35-39歳／第一子）
- ・ 便秘がひどかった（30-34歳／第一子）
- ・ 産後一年間胃の不調があった（35-39歳／第二子）
- ・ 毛根管症候群になり、家事、育児が大変だった。胃腸の不調（30-34歳／第一子）
- ・ 体重が全く減らなかった（35-39歳／第一子）
- ・ 腰痛、腱鞘炎の痛み（35-39歳／第一子）
- ・ 持病の悪化（35-39歳／第二子）
- ・ 一人目の出産と違い、産後湿疹がでたこと（35-39歳／第二子）
- ・ 腰痛（25-29歳／第一子）
- ・ 子どもが入院して自分が先に退院したため体調がきつい中の通院が大変だった。（35-39歳／第二子）

○最も回答が多かったのは、「睡眠が十分にとれなかった」で55.5%、次に多いのは「体の疲れがとれなかった」で52.3%となっており、半数以上の方が出産後の睡眠不足と身体の疲れを感じている。

【問3】育児に関して困ったことや辛かったことはありましたか。（複数回答可）

【全体】



■その他意見

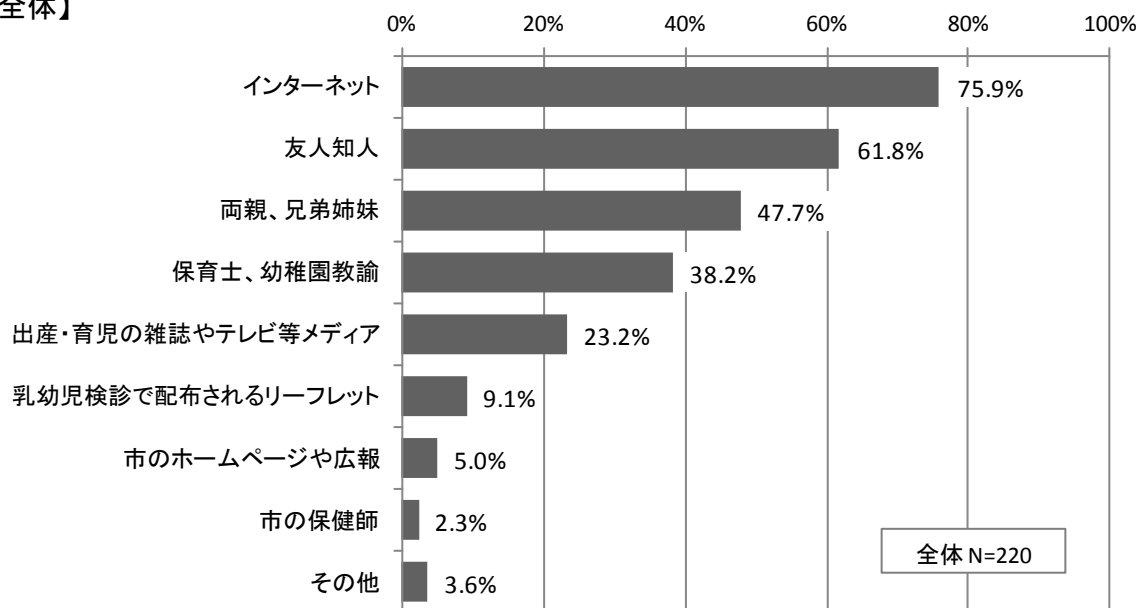
- ・ 夫の帰りが遅く、居るときは手伝ってくれるが、居ないときは1人でやらないといけないこと (40歳以上/第二子)
- ・ 義理の母のしつけと自分の子育てに対するしつけの相違 (35-39歳/第二子)
- ・ 家族の介護による苦痛 (35-39歳/第一子)
- ・ 上の子の赤ちゃん返り (35-39歳/第二子)
- ・ 二人目に疾病があり、一人目とは全く違う育児になったため大変だった。 (35-39歳/第二子)
- ・ 自分の時間が持てずにストレスがたまること (35-39歳/第二子)

○「仕事と育児の両立のこと」と回答した方が最も多く38.8%、続いて「家事に関すること」が30.6%、「経済的なこと」が29.2%となっている。

【問4】 普段、子育てに関する情報はどこから得ていますか。

(主に利用しているもの最大3つ)

【全体】



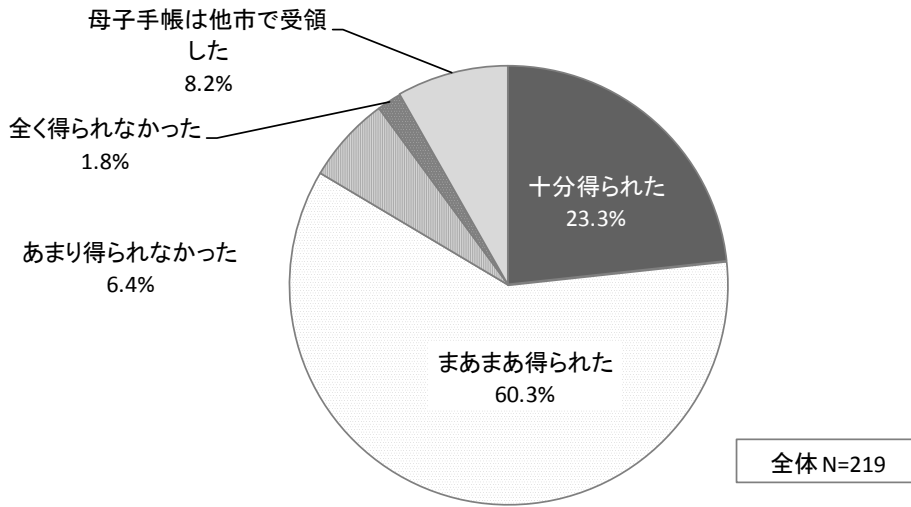
■ その他意見

- ・ 上の子の時のことを思い出してやり過ごす (30-34 歳 / 第二子)
- ・ 職場の仲間 (40 歳以上 / 第一子、40 歳以上 / 第二子)
- ・ 子育て支援施設 (35-39 歳 / 第一子)
- ・ 子育て支援センターの先生から (25-29 歳 / 第一子)
- ・ ひよこクラブなど (30-34 歳 / 第一子)
- ・ 育児の本 (35-39 歳 / 第二子、30-34 歳 / 第二子)

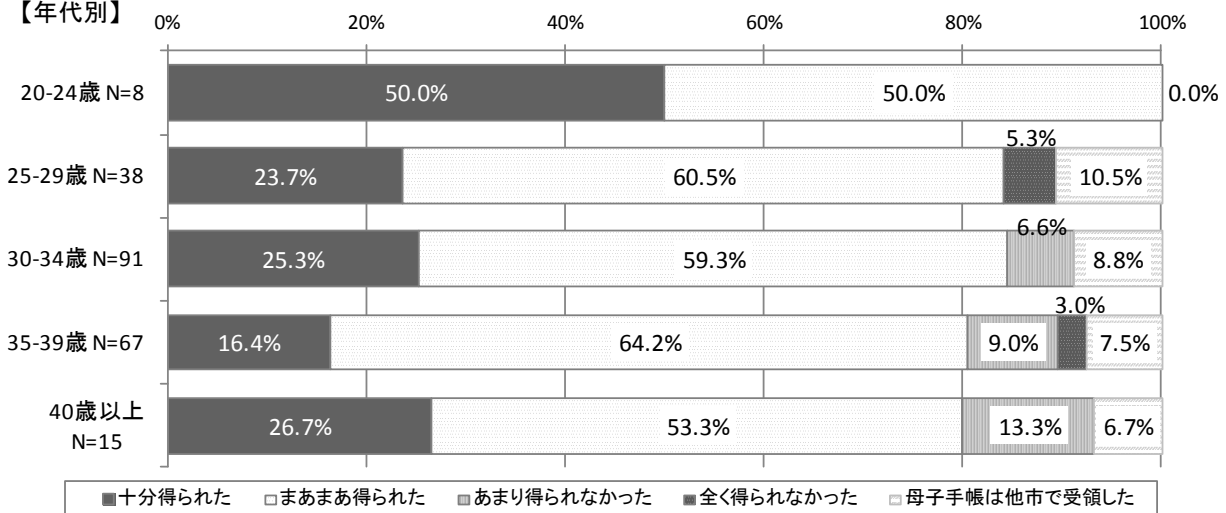
○ 「インターネット」で情報を得ている方が最も多く 75.9%、次に「友人知人」と回答した方が 61.8%、続いて「両親、兄弟姉妹」と回答した方が 47.7%となっている。

【問5】母子手帳交付時に行っている保健師による「妊婦健康相談」について、この健康相談で安心感や満足感が得られましたか。

【全体】



【年代別】

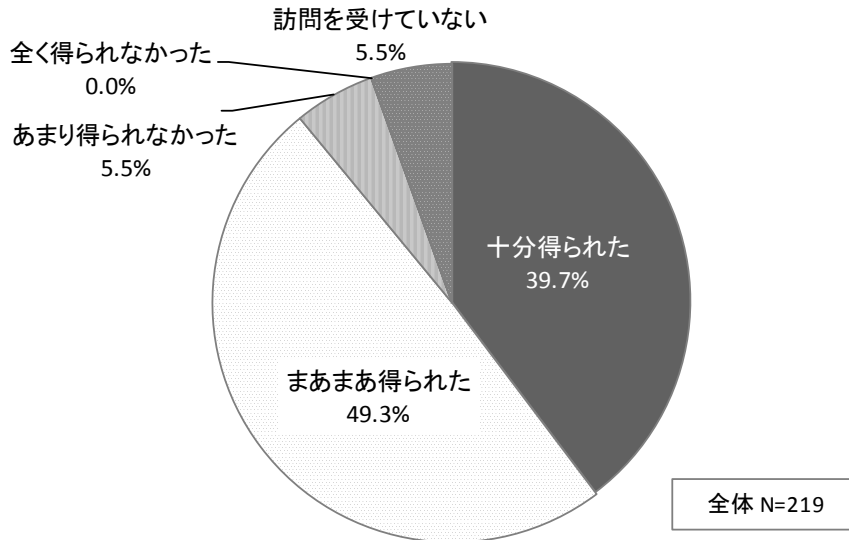


○全体では、「十分得られた」が23.3%、「まあまあ得られた」が60.3%となっており、「十分得られた」「まあまあ得られた」と回答した方を合わせると8割を超える方が妊婦健康相談で安心感や満足感が得られた結果となっている。

○年代別では、20歳から24歳では回答者数が少ない（8名）ものの、全ての方が「十分得られた」「まあまあ得られた」と回答しており、「十分得られた」「まあまあ得られた」を合わせた割合は25歳から29歳で84.2%、30歳から34歳で84.6%、35歳から39歳で80.6%、40歳以上で80.0%と、年代が低くなるほど満足度が高くなる傾向がある。

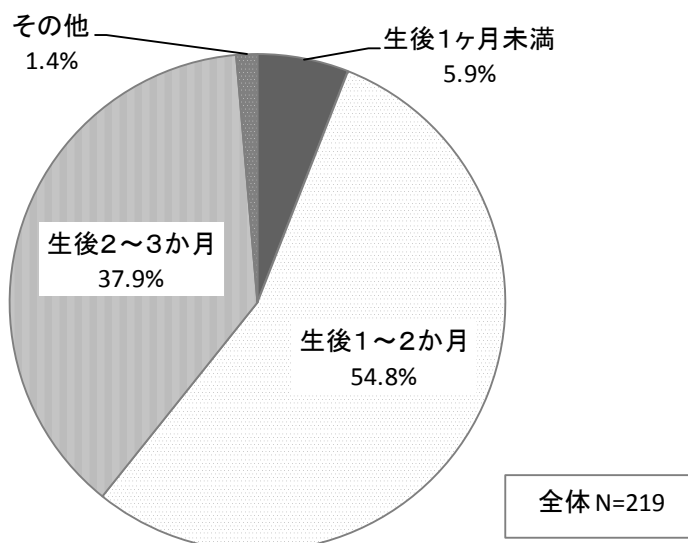
【問6】 おおむね生後2か月頃の赤ちゃんの家庭に保健師や助産師が訪問して健康情報や育児情報を提供する「こんにちは赤ちゃん訪問事業」で、安心感や満足感が得られましたか。

【全体】



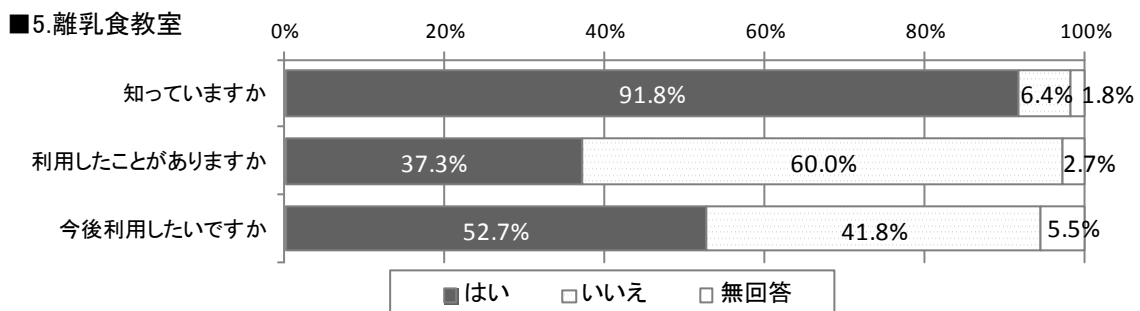
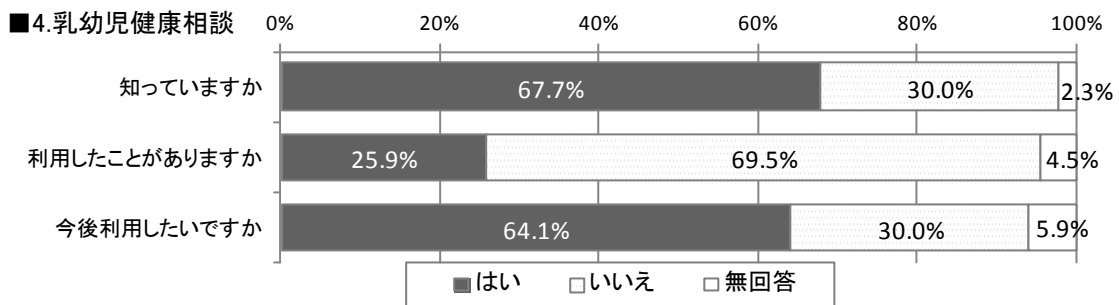
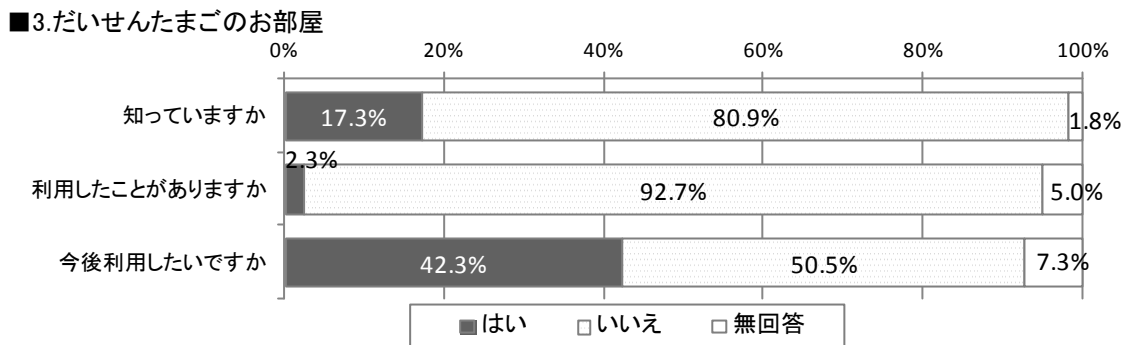
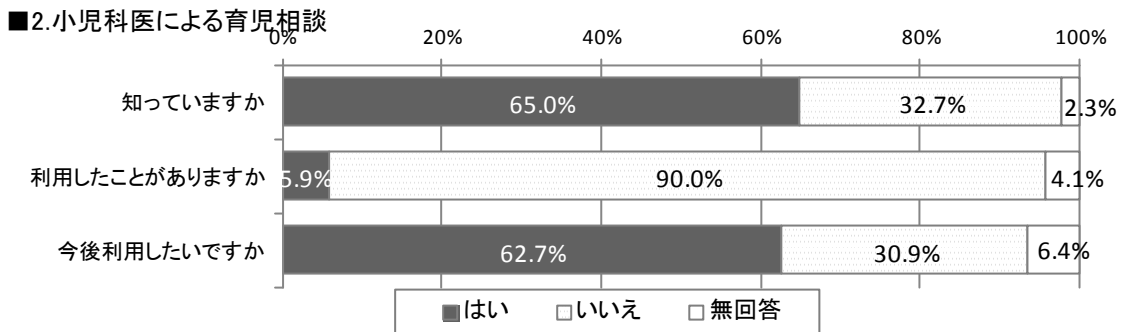
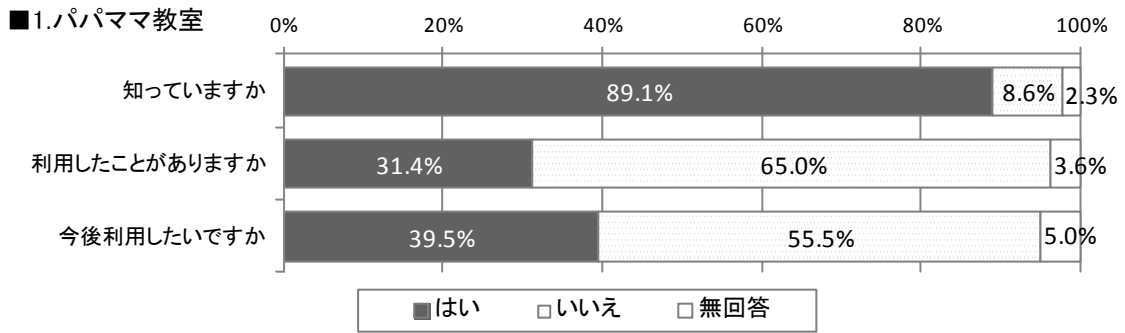
○「十分得られた」と回答した方が39.7%、「まあまあ得られた」と回答した方が49.3%となっている。一方で、「全く得られなかった」と回答した方はいない。「十分得られた」「まあまあ得られた」と回答した方を合わせると9割近い方が「こんにちは赤ちゃん訪問」で安心感や満足感が得られたと回答している。

【問6-1】 「こんにちは赤ちゃん訪問事業」で行う家庭訪問は、どの時期がいいですか。



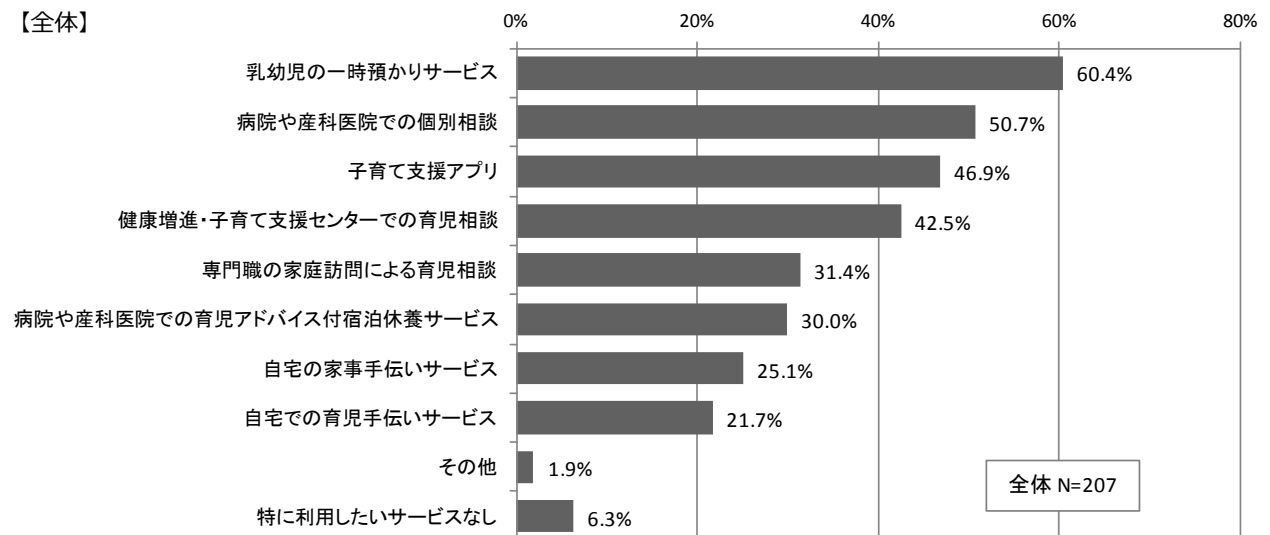
○「生後1～2か月」と回答した方が最も多く54.8%、次に多いのは「生後2～3か月」で37.9%となっている。

【問7】 次の事業について、知っていましたか。また、利用したことはありますか。今後新たに妊娠、出産した場合、利用したいと思いますか。



- 「パパママ教室」については、認知度が 89.1%と高く、利用率は 31.4%、利用希望率は 39.5%となっている。
- 「小児科医による育児相談」については、認知度が 65.0%、利用率は 5.9%と低いが、利用希望率は 62.7%と、今後機会があれば利用したいと考えている方が 6 割以上いる。
- 「だいせんたまごのお部屋」については、認知度が 17.3%、利用率は 2.3%と低いが、利用希望率は 42.3%となっている。
- 「乳幼児健康相談」については、認知度が 67.7%、利用率は 25.9%、利用希望率は 64.1%と、今後機会があれば利用したいと考えている方が 6 割以上いる。
- 「離乳食教室」については、認知度が 91.8%、利用率が 37.3%、利用希望率は 52.7%となっており、半数程度の方が今後機会があれば利用したいと考えている。

【問 8】産後のサービスとして利用したいと思うものはありますか。（複数回答可）

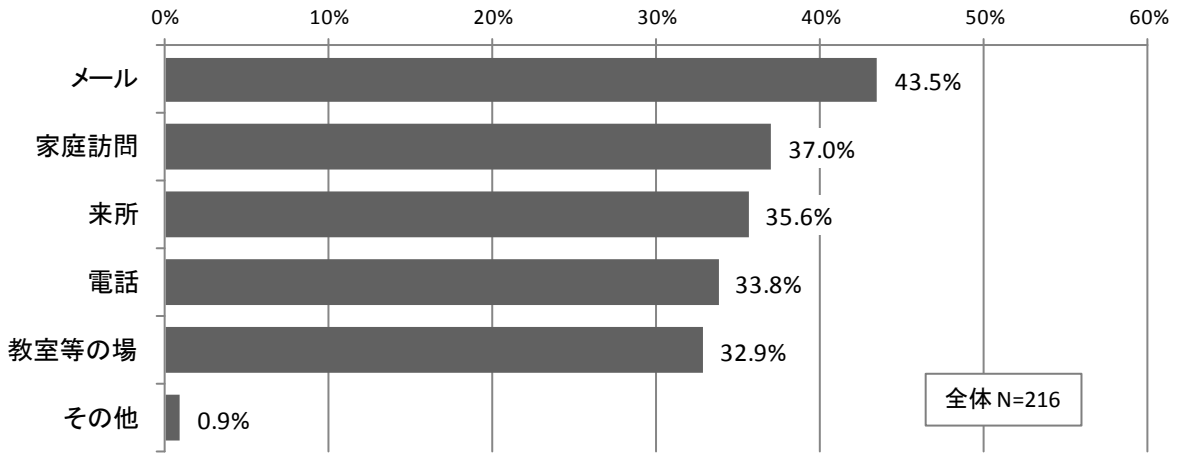


■その他意見

- ・ 病院を大曲こどもクリニックのような受付をできるようにしてほしい。子どもが体調を崩しているのに受付に行って待っていたら悪くなるだけ。（大曲／30-34 歳）
- ・ 夕飯配達サービス、冷凍物など（西仙北／35-39 歳）
- ・ 祖父母の育児への関わり方教室（食育・発熱時の対処方）（仙北／40 歳以上）
- ・ 病後児保育などの預かり（南外／35-39 歳）

- 産後のサービスとして利用したい方が最も多いのは、「乳幼児の一時預かりサービス」で 60.4%、次に「病院や産科医院での個別相談」で 50.7%、三番目に「子育て支援アプリ」で 46.9%となっている。「健康増進・子育て支援センターでの育児相談」は 4 番目で、42.5%となっている。
- 自宅における家事や育児の手伝いサービスは、いずれも 20%以上の方が利用したいと思っているものの、選択肢中の産後サービスの中では最下位となっている。

【問9】あなたが市の保健師や栄養士と相談する場合、利用しやすい方法はどれですか。
(複数回答可)



■その他意見

- ・ アプリやLINE (30-34歳/第一子)
- ・ 講習会などではなく、気軽に話せる子ども広場など (35-39歳/第二子)

- 「メール」と回答した方が最も多く 43.5%となっており、次に「家庭訪問」が多く 37.0%となっている。
- 回答者が最も多い「メール」と回答した方と、次の「家庭訪問」と回答した方では 6.5 ポイントの差があるものの、三番目以降の「来所」「電話」「教室等の場」は 32.9%から 37%と 4.1 ポイントの幅に収まっており、優位差があまり見られない。

【問10】市が行っている妊娠、出産、育児に関する事業、サービス、市の保健師へのご意見やご要望がありましたらご記入ください。(自由記述)

- パパママ教室に参加したかったが、締め切り日が思ったより早くて参加出来なかった。次にまた妊娠することがあれば参加したいから締切を何らかの形でお知らせ(メール等)してくれれば助かる。紙だと日々仕事に追われ確認することが難しい。
- 市で行っている事業についてあまり理解していなかったのが残念。今後出産の予定がないので、利用する機会はありませんが、これから出産を控えている方々へはもっとアピールした方がいい。
- まるこ広場でのスタッフのテンションが常連とたまに訪れる人とで違いすぎて居づらい。常連とは談笑し、たまに訪れる人には挨拶や会釈だけで、正直足が遠のいている。
- 市職員同士であっても、職員の家族の妊娠について許可無く他言しないでほしい。
- 保育園の入所の申込みの手続きについて、毎年同じことを子どもの人数分書かなければならないため、かなりの労力を要する。変わった箇所のみを訂正させるようなシステムにしてほしい。

- 難しいかもしれないが、土曜日に開催する事業があってもよいと思う。保健師さんは親切でありがたいが、今後助産師さんの訪問があっても良いと思う。母乳育児をしている人にとって、助産師が心強い。母乳相談は大仙市で開催している助産師さんがいるようだが、対象となっていないので、大仙市近郊で開催している助産師さんを対象事業所にあげてほしい。
- 近隣の市町村に比べて、事業が少ない。美郷はチャイルドシートの助成が出たり、横手は出産祝い金が市からもらえると聞いた。どこの市町村も少子化対策が少しずつ進んでいるのに、大仙市はごみ袋だけと、お母さんたちと話しているととても残念。
- 問8で○をつけたようなサービスがあれば、利用してみたい。
- 4月生まれの子どもを育てていて、年少のクラス、満3歳になったら入園できるようなこども園があればいいと思う。近くに祖父母が居るわけではないので、自分のリフレッシュ、病院、妊娠のタイミングを日々考えている。
- 問8で選択肢になっているものを1つでも実現してほしい。
- 日曜・祝日対応の保育園があれば仕事の幅が広がり、子どもを持つ母親はいきいきと仕事ができるようになると思う。
- 健診の流れをもっとスムーズにしてほしい。毎回午後で待っている間子どもがぐずり大変。午前だといっている親は多いと思います。いつも昼寝の時間とかぶり大変。
- 相談を親身になってきてほしい。その後の対応もスムーズにしてもらえたら助かる。
- 育児相談教室に参加したときに、後ろでおしゃべりしている職員がいる。数回参加しているが決まって同じ人たち。
- 子どもたちが気軽に利用できる場所を増やしてほしい。
- 共働きの家庭のためかぜ等ひいた時の預ける場所を増やしてほしい。
- 母と子どもが一緒に出来る体操やベビーマッサージがあれば、他の母親、子どもとの交流が図れると思う。
- 産後2ヶ月のこんにちは赤ちゃん訪問事業には育児環境の相談をしたいので、経験豊富な保健師にきてほしい。またそのときの問題点を継続してフォローしてほしい。
- 赤ちゃんBOOK継続してほしい。図書館利用時間を18時にしてほしい。平日利用できなくなった。
- 乳幼児健康相談では、困って行ってもいいアドバイスが貰えなかった。飲食ができないため、子どもにとっては大変で長時間いれない。小さな子どもが対象にも関わらずおかしい。半数は身長体重を量り帰る。これではせっかくの絵本の読み聞かせも聞いてくれるひとが少ないし、参加者同士の交流も図れない。子どものおもちゃも少なくあきてしまう。
- まるこひろばのような所がもう少しほしい。横手の支援センターのような施設がほしい。申込み無く行っても参加できるようなイベントを週1くらいでやってくれるとうれしい。
- 祖父母の協力があって大変助かっているが、食育に関する事に多少の食い違いがあって困る。こちらから伝えてもなかなか伝わらない。(お菓子に入っているはちみつ等の危険性やアレルギーのこと)注意すると怖がって食事の支度もしなくなるので熱があつてふらふらしている最中作っている。座薬も38.5度の状態で使いまくる。熱は高いが走り回れるくらいであればつかわなくてよいと教わってきたので食い違いがある。
- 平日休みではないため、パパママ教室に参加できなかった。(会社に休みを取るような内容ではないと言われた)
- 第一子の人は特に生後間もない子どもとどう触れあえばいいかわからないから、同齡ごとなどに簡単にでも触れ合い方などが分かるものがあればよい。
- 妊娠、出産、育児期の母親がもっとゆっくり仕事を続けられるよう職場に働きかけてほしい。
- 年度途中での保育園入園がスムーズに出来るようにしてほしい。
- 第三子は無条件で保育料無料の助成

- 市の保健師、栄養士は笑顔がなく怒っている表情の方もいる。〇ヶ月健診の時、子どもや赤ちゃんに対しては笑顔、母親には笑顔なし。不安なことも相談しづらい。意外と見られているので気をつけた方がいい。市からいただく絵本も前にもらったことのある本なので、違う本にしてほしい。
- 赤ちゃん訪問事業で来られる保健師さんにもう少し医療知識があるといい。
- 母子手帳交付の際に曜日を定められると仕事の都合で行きづらいから自由にしてほしい。
- おむつやごみ袋がもらえるサービスが助かった。
- 生後2ヶ月ころの保健師さんによる訪問サービスは慣れない育児で不安が大きい時期に来てくれるから助かった。子育て支援施設は現在も利用しているが、母親同士の情報交換や気分転換にもなるからありがたい。
- 病児保育施設をまだ利用したことはないが、仕事復帰しているので、いざという時に利用出来る施設を増やしてほしい。保育園からの呼び出しが来ないかヒヤヒヤしながら仕事をしている。子育てと仕事の両立は大変なので家事、育児を気軽に手伝ってもらえるサービスが必要だと思う。夫にも育児に協力して貰えるように出産、子育ての大変さを理解してもらえるような機会をつくってほしい。
- もう少し子育て支援に対して積極的な支援をしてほしい。一時預かり等の利用はしづらいし、枠がなくあまり預かってもらえない。リフレッシュしたくても預けられないので気軽に利用できる環境を作してほしい。
- パパママ教室や離乳食教室など参加してみたい事業が色々あったが仕事のため行けなかった。土日などに行ってくれば気軽に行くことができたと思う。(妊婦健診や子どもの予防接種で仕事の休みが増えるのでなかなかその他の理由で休みを取得することが難しい。)
- 保育園がいっぱいで入所を断られた。早く仕事をしたいが、家に祖母がいることで断られたと思う。でも体調が悪くずっと預けられる感じではないので早くスムーズに入所できるような体制、サービスがほしい。
- 他の市に比べて、子育て情報が少なく感じる。他の市は広報にたくさん載っていたり、支援センター等に保育園のイベントやサークルのチラシがたくさんおいていたので情報が入ってきやすかった。
- 乳幼児健康相談のときなどベビーマッサージも取り入れてほしい。
- ロタウイルスの予防接種を無料にしてくれたらありがたい。
- まるこひろばのような所を増やしてほしい。
- 子どものイベントを増やしてほしい。
- ミルクの調乳のためお湯を貰えるような設備を増やしてほしい。
- 市役所が古く設備的に赤ちゃんを連れて行くと不便。
- 検診のときなどの保健師さんや助産師さんはとても話しやすく良かった。栄養士さんは少し冷たい印象だった。
- 小児救急が少なく(日曜のみ)本当に不便。
- 事業実施はいいが、実施日に参加出来ないことが多い。共働きの時代になりつつあるのに、事業が行われるのは平日で仕事を休まなければ参加できない。参加しやすい時、場所等の子を持つ親の家庭状況に合わせていくことも大切。
- 上の子を含め乳幼児の検診を受けているが、ある保健師の方だけ素っ気ない態度をするので相談しづらい。他の方は親身で相談事も都度解決しましたが、その方には軽く流されてしまい、それ以上相談する気になれなかった。
- ごみ袋を出産後にもらえて助かった。予想以上に子どもがいるとごみが増えたのでおむつが外れる3歳ころまで毎年配布してほしい。
- 母子手帳をディズニーなどかわいいものにしてほしい。
- 親子で参加できるイベント、サービスが増えればいい。育児をしながら息抜きになれば余裕を持って子と接することが出来ると思う。

- 先日はしかの流行がニュースになった際に、同じMRワクチンが主流であるはずなのに、風疹の抗体があるためにはしかでMRワクチンを打つ場合の料金が自費になった。子育て世代とはしかのワクチンが1回接種の世代は重なっているから、出産のサポートとしてはしかのワクチンに少しでも補助があればいいと思う。
- 保健師さんによってアドバイスが異なる場合があったので方針を一つにしてほしい。産後すぐは混乱しやすい。
- 市の保健師の方々は相談時にとっても親身になって話を聞いてくれる。家族や友人にも相談できないことや愚痴も聞いてくれるので相談の帰りに気持ち楽になる。
- 離乳食が始まりそうな時期の検診で離乳食のサンプル、10倍がゆのやわらかさや米粒の状態など。親が触って確かめられるようなサンプルがあると嬉しい。離乳食教育だと行くのが面倒。
- 利用しはじめたばかりなので要望などは思い浮かびませんが、乳幼児健康相談に一度だけ参加しましたが、丁寧に説明してくれて不安な気持ちも和らいだのでまた参加したい。
- 健診で保健師さんに相談しても、それは病院に行ってくださいというような反応しか返ってこなかった。それなら何のために相談しているのかと思うことがあった。すでに知っているような情報しか提供されていないように感じる。子どもの眠い時間帯に負担を感じながら行っているのだからもっと有意義なものにしてほしい。
- だいせんたまごの部屋という取組を今まで知らなかった。産科などにパンフレットとして置いてほしい。
- 県外で定期の予防接種を受けても、助成対象にしてもらいたい。第二子出産で里帰りしたとき、とても困った。実家の市は、払い戻し対応で助成対象だったので。
- 乳幼児健診の実施の時間帯はちょうど昼寝の時なので時間を変えてほしい。できなければ個別で医院などに出向き個々の都合のよい日時に合わせていけるようにしてほしい。団体の検診でなくてもいいと思う。これをするのであれば、団体での予防接種をやってくれてもいいと思う。
- 病児保育のサービスを充実させてほしい。
- 出産後、体の不調が続き病院通いをした。いろんな医療機関を受診した結果医療費がかさんだので、産後半年から1年くらいは医療費の補助があると助かる。
- もっと出産・育児に対しての経済的支援を進めてほしい。仕事に対するマイナスがいまだに多く、第3子を考える余裕もない。
- 乳児健診等の日程のお知らせを出来るだけ早めにほしい。育休中にまるこひろばをよく利用していた。そのような場所がもっと活用できればよいと思う。
- 健診や教室で満足感が得られない。(知識が得られない、適切なアドバイスが得られない。進行がスムーズでない、対象者に興味を引く話や企画は少ない)
- 健康増進センターに開けたイメージがない。
- 初めての出産、育児で何もわからなかったがこんにちは赤ちゃん訪問で来てくださった保健師さんが笑顔で対応し、悩みなども聞いてくれて救われた。予防接種のことなどで何回か市役所に電話をしたが、丁寧にわかりやすく答えてくれて感謝している。
- 月齢ごとの健診の際、保健師と医師で内容が違い混乱した。子どものしゃぶり癖について相談し、保健師からは共感的に話を聞いて貰えたが、医師からは寂しいからだと言われ、どちらの言葉を受け入れればいいのか分からなかった。
- 市の子育て支援などの取組には感謝している。妊娠の頃にもらった妊婦一般健康診査受診表は非常に嬉しかった。妊娠糖尿病のため、検査費用や入院、治療、薬代など意外な出費で無事に出産できるかの不安と以前夫が勤めていた会社の倒産のため経済的な不安の時期が重なっていた。同様の境遇の方のためにも妊娠中の医療費をいくらか市で負担してほしい。
- 市の保健師さんは電話相談や直接会って相談をさせてもらい助かった。近隣の小児科医の健診では発達が遅れている子へのアドバイスが全く無く、不安と心配しか無かった。健診ではそのような部分をもっと重点的にしてもらえたらみんな安心して子育てが出来ると思う。

- 赤ちゃん訪問で不安だったことがきけた。これからも続けてほしい。
- 2歳までの年1回のごみ袋の配布を市役所に取りに行くのではなく、郵送してほしい。小さい子を連れて行くのは大変なので
- 健診の際、男性の保健師さんで授乳や体の不調の話が出来なかった。健診に関しては経産婦がいい。作業でこなされると意味ない。
- 母子手帳を近くで手続きできるようにしてほしい。
- 梅毒が広がっているとニュースで見るので、感染の予防や中絶を減らすために中1、2年生くらいできちんとした教育をしてほしい。
- 市の博物館や動物園等、3人以上子を持つ家族は、入園料を障害者割引のようにし、3人以上産みたくなるような特典を与えてほしい。
- 妊婦さんや他のママさんたちが気軽に交流できる場を増やしてほしい。
- 病後児保育を増やしてほしい。
- パパママ教室や離乳食教室などを平日ではなく、土曜などに行って貰えると行きやすい。
- 事業を行う場所を各保育園などにすると、入園するときに不安が軽減されて入りやすくなると思う。
- ごみ袋のサービスを2、3年目も続けてほしい。
- 大曲の病児、病後保育がなくなってしまったから2、3件できるところがほしい。
- 健診を午前中にしてほしい。
- 1歳になったら無料でフッ素塗布をしてほしい。
- もっと企業むけの妊娠、出産、育児に対する理解や融通が利く社会になるような何かをしてほしい。
- 県北では病院で病児保育をやっている働くママさんに重宝されている。刈和野と太田にあるようだが、国道沿いでそのようなサービスがあればいいと思う。
- 乳児健診はとていい交流の場で悩みも相談できていいが時間が長い。もう少し手短かにしてほしい。
- 母子手帳の交付曜日が限られていて、受け取りにくかった。
- こんにちは赤ちゃん訪問で訪問予定の連絡がもう少し余裕を持ってほしかった。
- 虐待のニュースをよく目にしますが、大仙市でも育児に悩んでいて虐待に近いようなことや虐待をしてしまっている人が身近にいるかもしれないので、気軽に相談できる電話サービスや強制参加の親子サークルなどをやってみたらいいと思う。
- 子育て支援センターは増えてほしい。センター内で昼食が取れて、1日いられるとなお良い。
- 乳幼児健診の開始時間を午前中か午後にして選べるようにしてほしい。
- 健診の医師はもう少し若い医師にしてほしい。年配だと適格なアドバイスが貰えず、健診を受けに行っている意味がない。
- 訪問してくれた保健師さんが身長を測ってくれなかった。相談しても「うん」と言うだけで悩みが解決されなかった。できれば経験豊富な方に聞いてほしい。
- 妊娠から育児まで大仙市は安心して子育てができる場所だと思う。
- 健診の開始時間について、お昼寝の時間と重なるからぐずる子どもが多い。医師などとの兼ね合いもあると思うが、午後2時からにしてくれるとありがたい。
- 大曲地域の栄養士さんの対応が悪かったときがある。
- 隣の美郷町ではチャイルドシートを買うための助成金等を支給していると聞いたことがある。そのような取組をして金銭的にも子育て家族世帯を応援してもらえるようなサービスがほしい。
- 2人の子どもが同時に病気になり、自分も体調が悪いとき、買い物にも行けず、食料がなくなってしまうので手伝ってもらえるサービスがほしい。
- 困ったときは今後も相談に乗ってほしい。

- 市で行っているサービスがあまりよく分からない。どこで情報を知ることができるかも分からない。
- 出産する前に家庭訪問してほしい。出産の不安や出産後のいろいろな手続きのことを教えてほしい。
- 子どもの健診時、いつも優しく話を聞いてくれたり、丁寧に育児に関する情報を教えてもらえるので助かっている。
- 疾病がある子どもの育児の場合、実際に育児をしている境遇の同じ方との連携を深め、声をかけていただくと心の支えになると思う。
- 母子手帳の交付が水曜の午前中に限られていて不便。
- 出産祝いでおむつをもらえたのはうれしかったが、希望するメーカーサイズやおむつき替え券などにしてほしい。
- 妊娠から育児まで同じ方に相談できるサービスがあれば安心。信頼関係が築けると心の拠り所になり、子育て支援が充実していると感じる。

◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

- 問1、問3の調査結果より、約4割の方が妊娠・出産・育児に困ったことや不安を抱えていることがわかった。しかし、現在実施されている母子関係の相談事業について認知度の低い事業や、認知度と利用希望率が高くても、実際の利用率は低い事業もあることが問7の結果でわかった。今後は、子育て支援アプリの導入やメール配信等を活用し、利用のきっかけとなるような周知方法を検討する。また、子育て支援アプリについては、産後に利用したいサービスの上位となっていたことから、早速平成31年1月から導入することとした。
- 問2の調査結果では、半数以上の方が産後の体調の不調を感じていた。忙しい母親が気軽に相談できるよう、専用の電話番号やメールの利用を導入し、相談しやすい体制を整備していく。また、母親自身の体調不調や育児に苦慮する家庭へのサービスの充実を図るため、産後ケアに関する新規事業も検討する。
- 妊娠中から産後にかけて、母親の不安や困りごとは多岐にわたっており、自由記載欄でも多くのご意見を頂いている。すぐに対応できるものもあるが、行政全体で取り組まなければいけない課題も多い。保健師や職員のスキルアップを図り、事業や健診体制等について検討していくとともに、平成31年度に設置予定の子育て世代包括支援センターにおいて、今回いただいた意見を参考にしながら、他課とも連携を図り、地域全体で支援する体制づくりを進めていく。

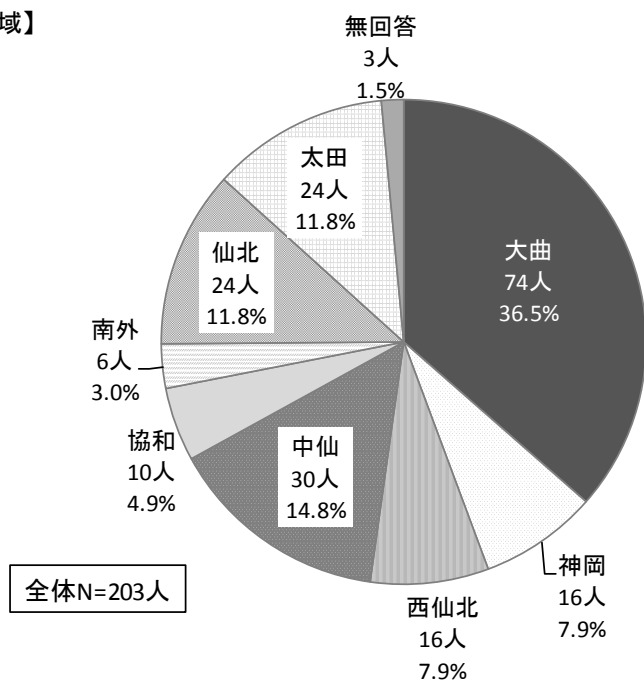
3.2.2 成人保健事業について

(健康福祉部健康増進センター)

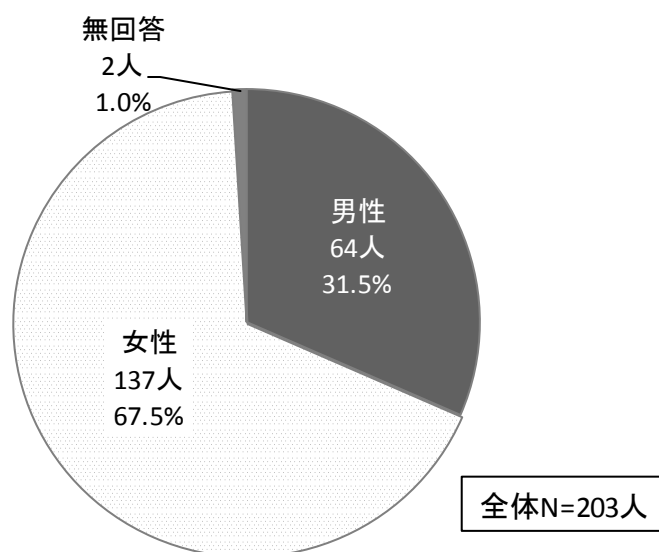
- ◆ **調査目的：** 胃がん検診、大腸がん検診の受診率向上を図るため、市で配布しているがん検診無料クーポン券の効果を検証すると共に、受診者のその後の検診の継続受診の勧奨方法や、継続してがん検診を受診できる体制整備を検討するため、継続受診の動機や継続を阻害している要因を調査する。
- ◆ **調査対象：** 平成 27 年度及び平成 28 年度に「胃がん検診無料クーポン券」、「大腸がん検診無料クーポン券」を送付した方で、無料クーポン券を利用して検診を受診した方 309 人
- ◆ **回収数・回答率：** 回収数 203 回収率 65.7%

回答者属性

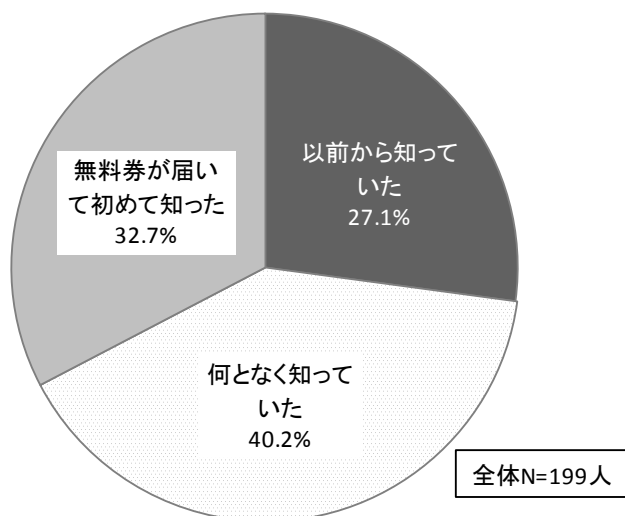
【地域】



【性別】

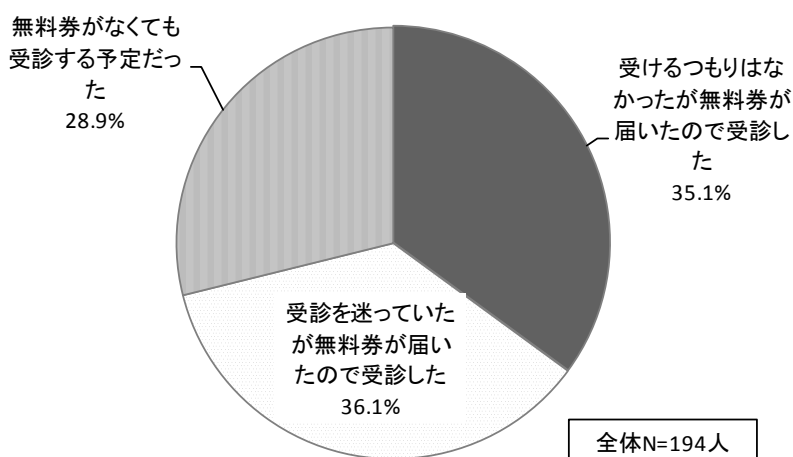


【問 1】あなたは、胃がん検診・大腸がん検診の対象年齢が「40 歳以上」と知っていましたか。

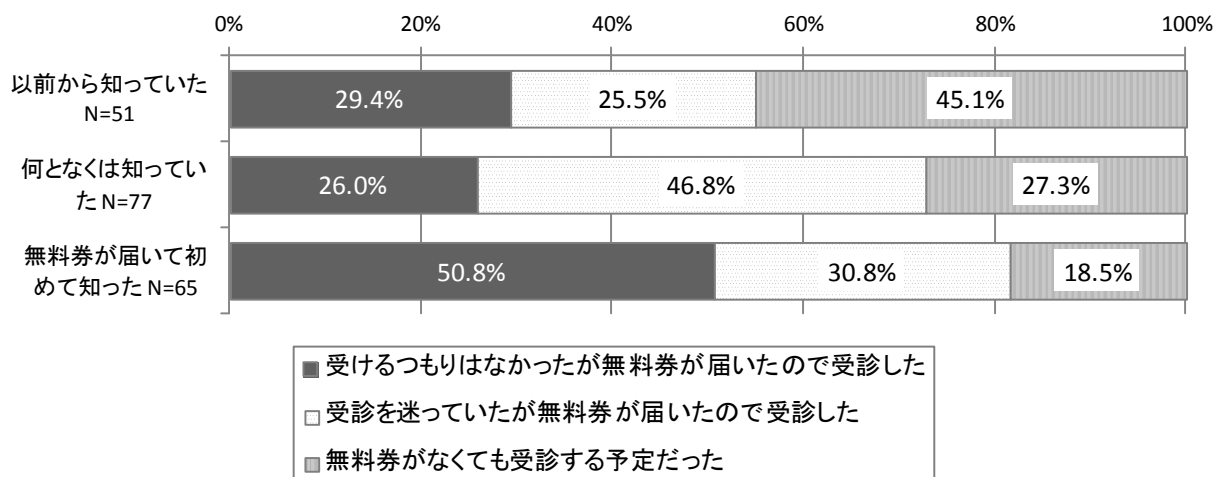


- 胃がん・大腸がん検診の対象年齢が40歳以上であることを「何となく知っていた」が最も多く40.2%、次に「無料券が届いて初めて知った」方が32.7%となっている。
- 「以前から知っていた」方と「何となく知っていた」方を合わせると、67.3%となっており、対象年齢を知っていたのは7割弱の方となっている。

【問2】送付された「がん検診無料クーポン券」は、がん検診を受けるきっかけになりましたか。



【問1「胃がん・大腸がん検診の対象年齢は「40歳以上」であることを知っていたか」の回答別】

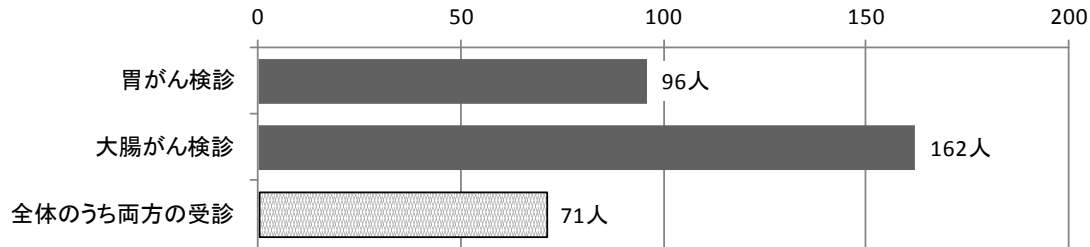


- 「受診を迷っていたが無料クーポン券が届いたので受診した」と回答した方が 36.1%で最も多く、次に多かったのは「受けるつもりはなかったが無料クーポン券が届いたので受診した」と回答した方で 35.1%となっている。
- 「受診を迷っていたが無料クーポン券が届いたので受診した」と「受けるつもりはなかったが無料クーポン券が届いたので受診した」と回答した方を合わせた、無料クーポン券が受診のきっかけになった方は、全体の 71.2%となっている。
- 問1「胃がん・大腸がん検診の対象が 40 歳以上だと知っていたか」の回答別で見ると、「受けるつもりはなかったが無料券が届いたので受診した」という、無料クーポン券が届いたことが直接的ながん検診受診のきっかけになった方は、胃がん・大腸がん検診が 40 歳以上だと「無料券が届いて初めて知った」方で割合が最も高く、50.8%となっている。
- 「無料券がなくても受診する予定だった」割合は、「以前から知っていた」方が 45.1%に対して、「無料券が届いて初めて知った」方では 18.5%となっている。がん検診が 40 歳からで

あることを以前から知っていた方と、知らなかった方では、無料クーポン券がなくても受診する予定だったかの割合の差が 26.6 ポイントある。

【問 3】 「がん検診無料クーポン券」を利用して受診したがん検診はどれですか。

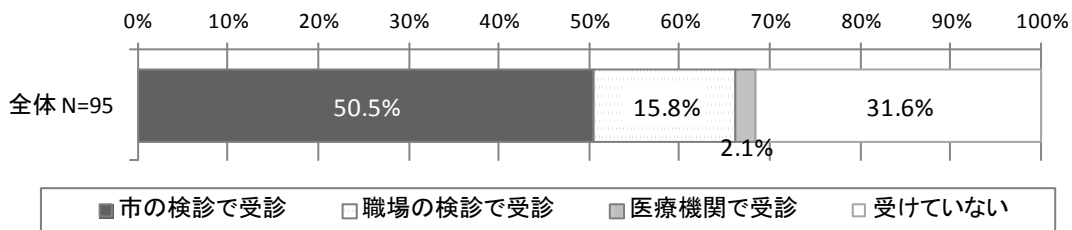
(複数回答可)



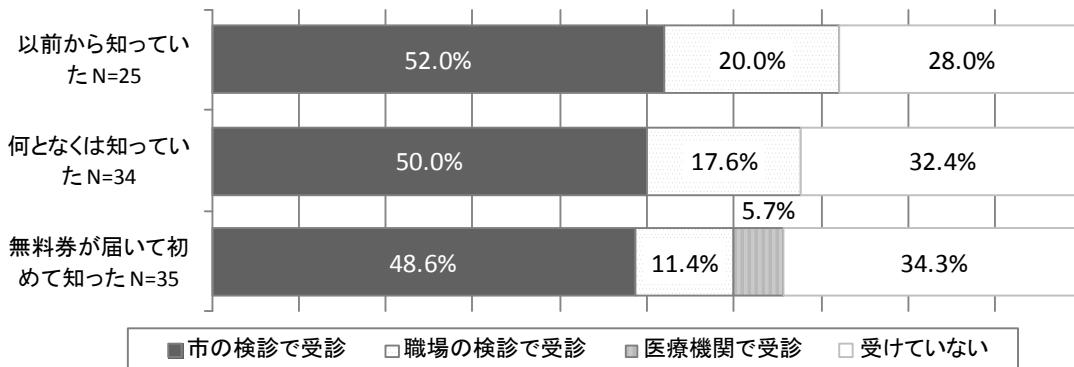
○無料クーポン券を利用して受診した方のうち、胃がん検診を受診した方は 96 人、大腸がん検診を受診した方は 162 人となっている。このうち、両方の検診を受診した方は 71 人となっている。

【問 4】 「がん検診無料クーポン券」で受診したがん検診を、その次の年も受診しましたか。

【胃がん検診】

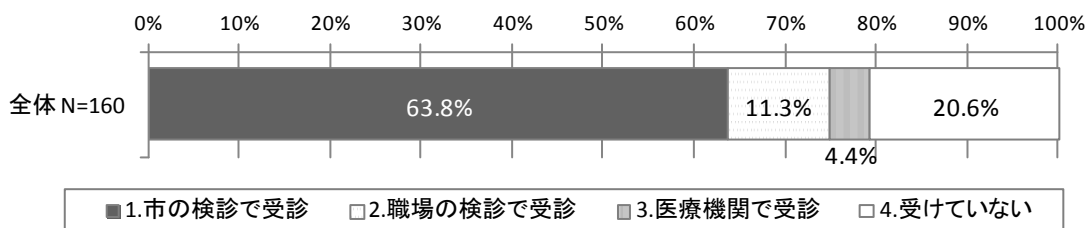


【問1「胃がん・大腸がん検診の対象年齢が「40歳以上」であることを知っていたか」の回答別】

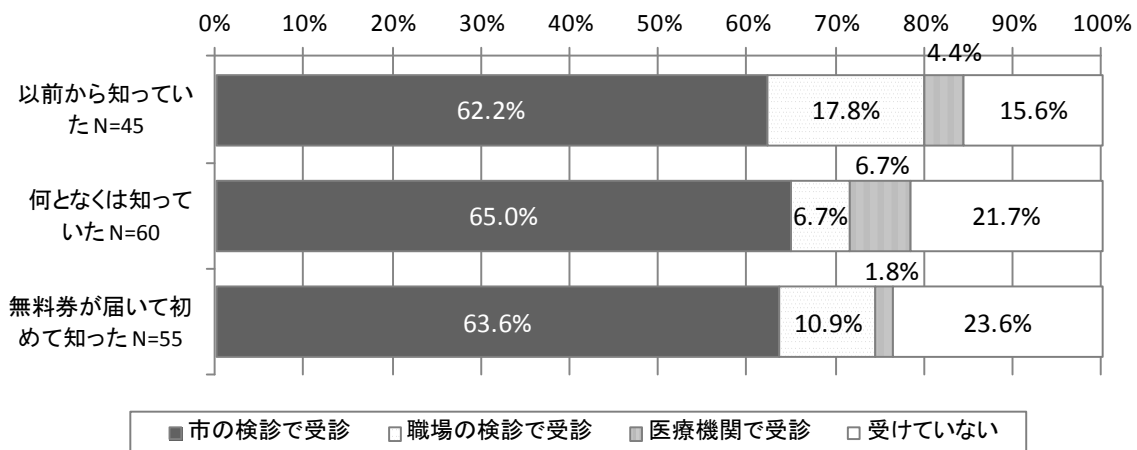


- 無料クーポン券で受診した胃がん検診を、次の年には「市の検診で受診した」方が最も多く 50.5%、次に多かったのは「受けていない」方で 31.6%となっている。
- 次の年に、市、職場、医療機関のいずれかで受診した方は合わせて 68.4%となっており、7割近い方が無料クーポン券で受診した胃がん検診を、受診した次の年も受診している。
- 問1より「胃がん・大腸がんの対象年齢が40歳以上であることを知っていたか」の別で見ると、いずれの受診機関でも「受けていない」割合は「無料券が届いて初めて知った」方が最も高く 34.3%で、「以前から知っていた」方が最も低く 28.0%となっている。

【大腸がん検診】



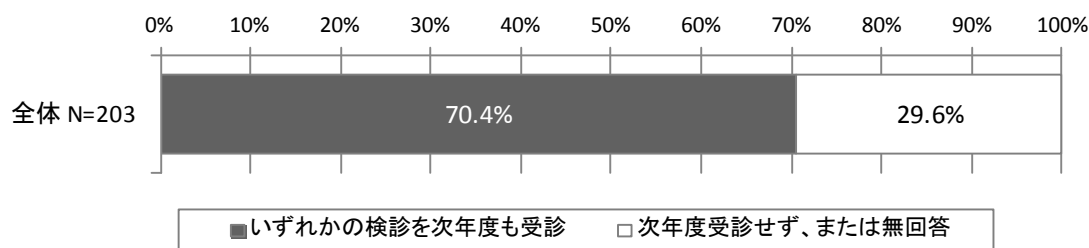
【問1「胃がん・大腸がん検診の対象年齢が「40歳以上」であることを知っていたか」の回答別】



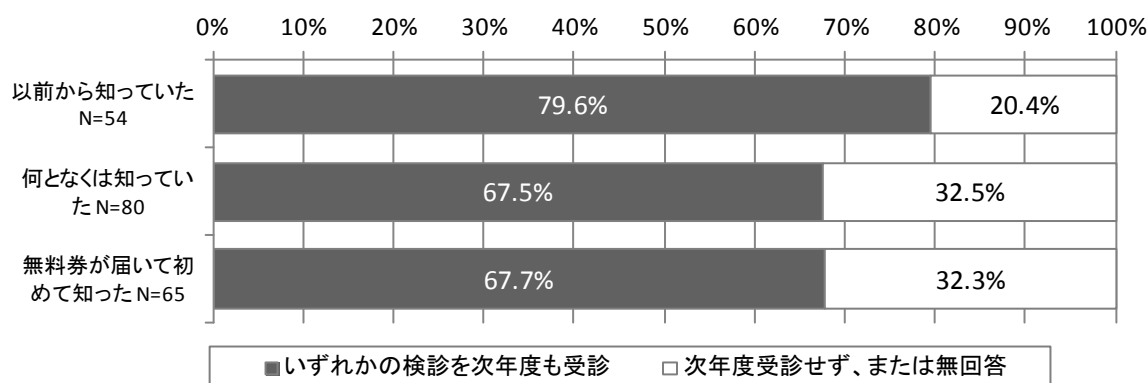
- 無料クーポン券で受診した大腸がん検診を、次の年には「市の検診で受診した」方が最も多く 63.8%、次に多かったのは「受けていない」方で 20.6%となっている。
- 次の年に、市、職場、医療機関のいずれかで受診した方は合わせて 79.5%となっており、8割近い方が無料クーポン券で受診した大腸がん検診を、受診した次の年も受診している。
- 問1の「胃がん・大腸がんの対象年齢が40歳以上であることを知っていたか」の別で見ると、いずれの受診機関でも「受けていない」割合は「無料券が届いて初めて知った」方が最も高く 23.6%で、「以前から知っていた」方が最も低く 15.6%となっている。

【胃がん・大腸がんいずれかの検診】

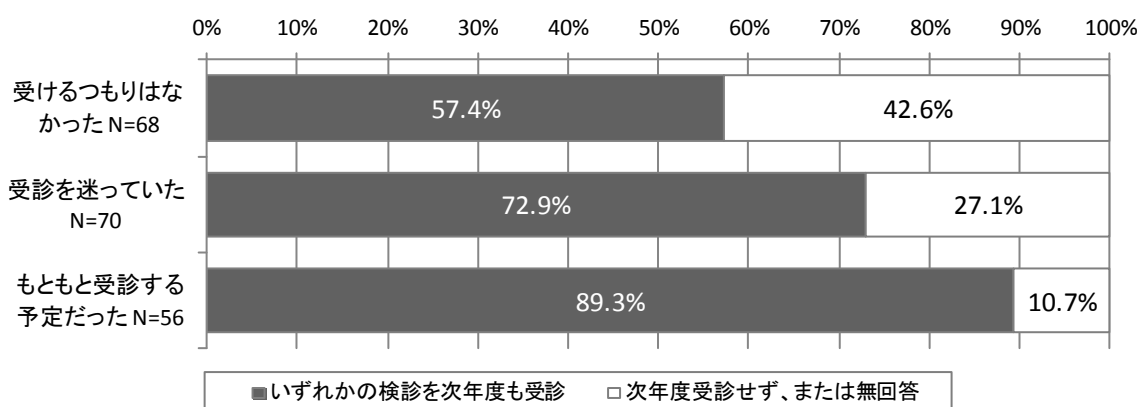
(胃がん・大腸がんの区別無く、いずれかを受診場所に関係なく受診した人)



【問1「胃がん・大腸がん検診の対象年齢が「40歳以上」であることを知っていたか」の回答別】



【問2「無料クーポンが届く前にかん検診を受ける予定だったか」の回答別】



○胃がん・大腸がんのいずれかのがん検診を、無料クーポン券で受診した翌年受診したかどうかで見ると、70.4%の方が翌年もいずれかの検診を受診していることがわかる。

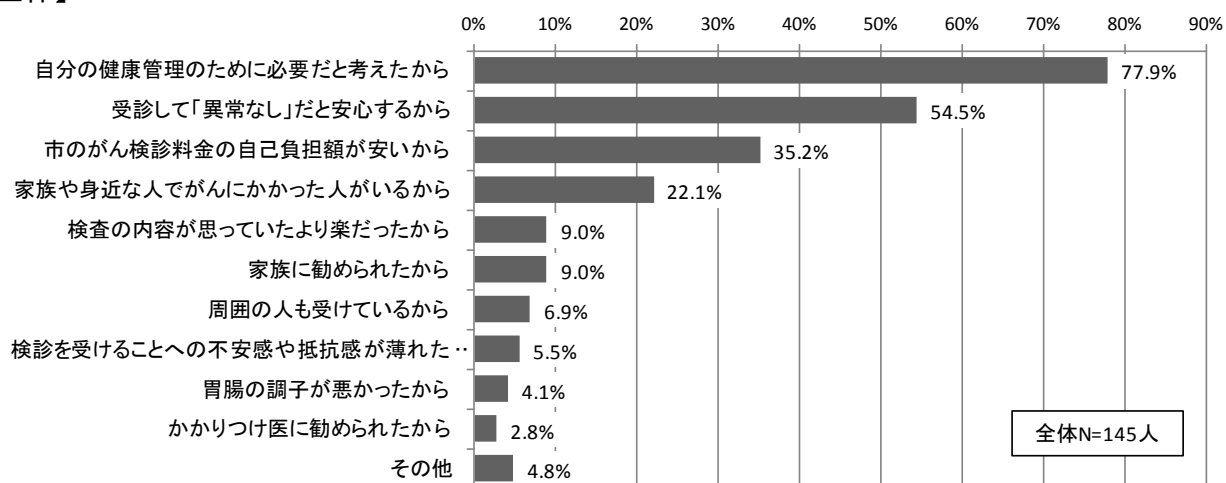
○問1の「胃がん・大腸がんの対象年齢が40歳以上であることを知っていたか」の別で見ると、「以前から知っていた」方が次年度もいずれかの検診を受診している割合が高く79.6%となっており、「何となくは知っていた」「無料券が届いて初めて知った」方とは12ポイント以上の差がある。

○問2の「無料クーポン券が届く前にかん検診を受ける予定だったか」の回答別では、もともと受診するつもりだった方の割合が最も高く89.3%であるが、受けるつもりはなかった方でも57.4%の方が翌年もいずれかの検診を受診している。

【問 4 - 1】 継続してがん検診を受けている理由は何ですか。（複数回答可）

（無料券を利用して受診した年以降もがん検診を受診している方）

【全体】



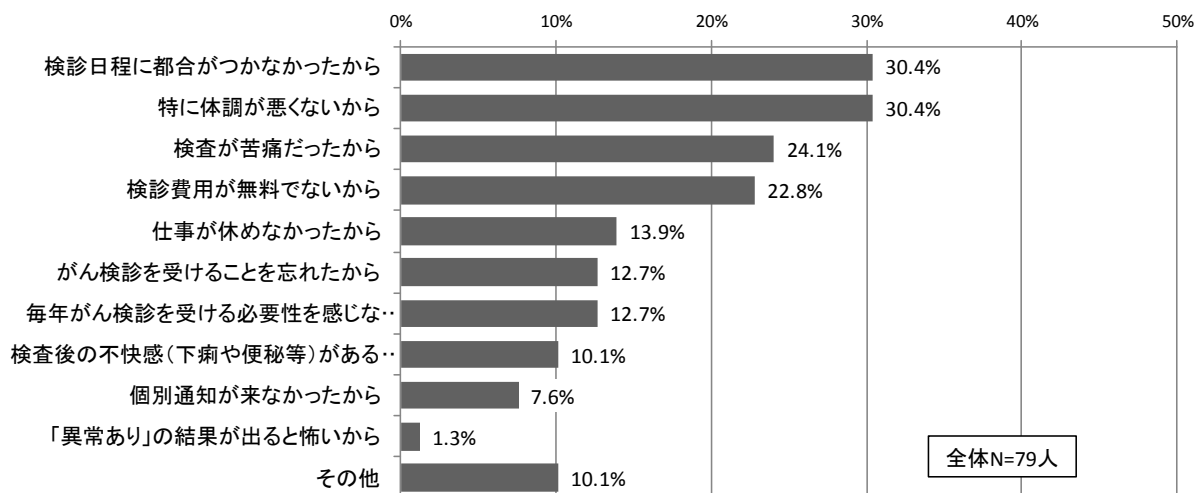
■その他意見

- ・ 研究に参加しているから
- ・ 10年無料だから
- ・ 日曜日の検診ができるから
- ・ なんとなく
- ・ がん死亡率が高い県に在住しているから
- ・ 毎年職場の検診があるため
- ・ 早期発見の大切さを思っ

○ 「自分の健康管理のために必要だと考えたから」と回答した方が最も多く 77.9%、「受診して『異常なし』だと安心してから」と回答した方が次に多く 54.5%となっている。

【問 4 - 2】（無料クーポン券を利用してがん検診を受診した翌年に）がん検診を受けることが出来なかった理由は何ですか。（複数回答可）
（無料券を利用して受診した翌年にがん検診を受診出来なかった方）

【全体】



■その他意見

- ・ 家の事情、自分の入院等で出来なかった
- ・ 妊娠の可能性がゼロではなかったため
- ・ 1年未満
- ・ 面倒だから
- ・ 胃カメラなどの検査が怖い

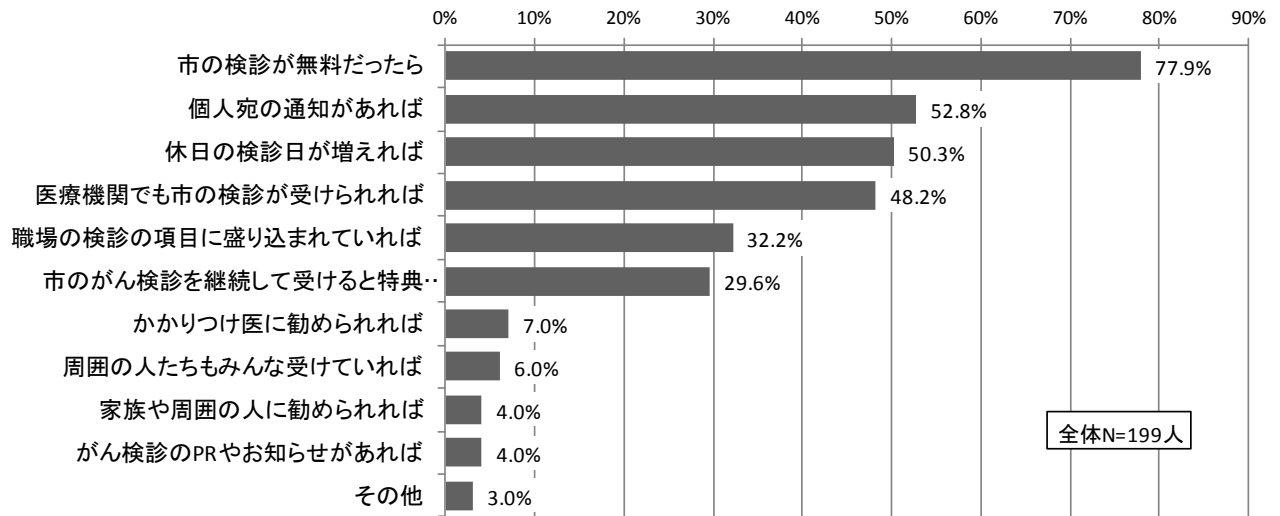
○「検診日程に都合がつかなかったから」「特に体調が悪くないから」と回答した方が同じ割合で30.4%となっている。

○三番目に回答した方が多かったのは「検査が苦痛だったから」で24.1%、「検診費用が無料でないから」がその次に多く22.8%となっている。

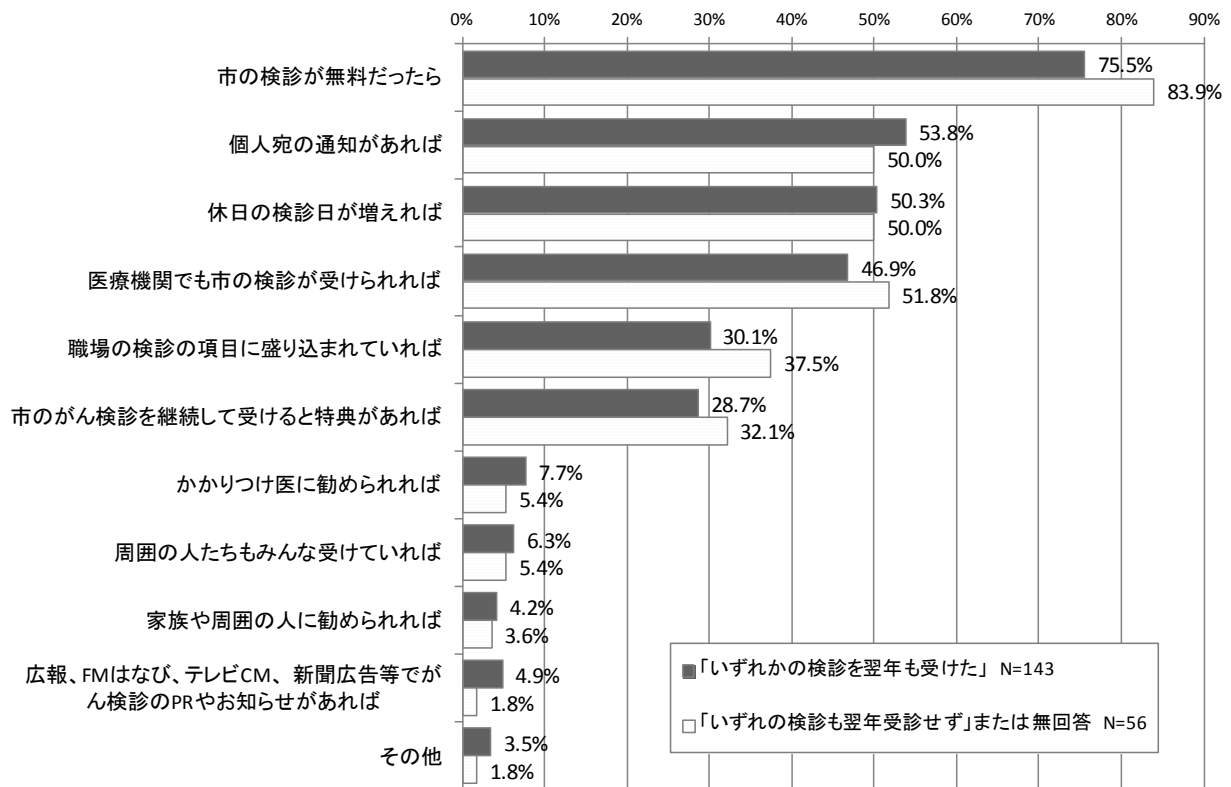
【問5】どんな働きかけがあれば、がん検診を継続して受けることが出来ると思いますか。

(最大5つまで)

【全体】



【問4より「無料クーポン券利用後の検診の継続受診」別】



■その他意見

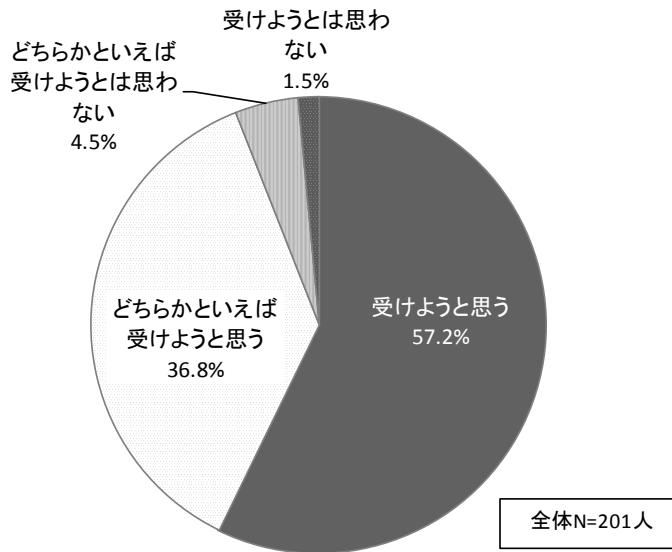
- ・ 待ち時間が少ないといい
- ・ 胃の検診のアナウンスが怖い
- ・ 平日の夕方から検診ができれば受診しやすい
- ・ 胃ガン検診の受け付け時間をもう少し延ばしてほしい。子どもを登校させてから会場に行きたいので
- ・ 年間を通じて受診できる日時がもっと多ければ。仕事や家のことで受けられない人も多いと思う。日曜検診の混み方にはうんざりする。
- ・ 早期発見が大事なことだと再確認するきっかけがあればいいと思う

○全体では、「市の検診が無料だったら」が最も多く 77.9%、「個人宛の通知があれば」が次に多く 52.8%となっており、一番目と二番目では 25.1 ポイントの差があり大きく開いている。三番目に多い「休日の検診日が増えれば」は 50.3%、その次の「医療機関でも市の検診が受けられれば」は 48.2%となっており、二番目、三番目、四番目はいずれも半数程度の方が「がん検診を継続的に受ける働きかけ」として回答している。

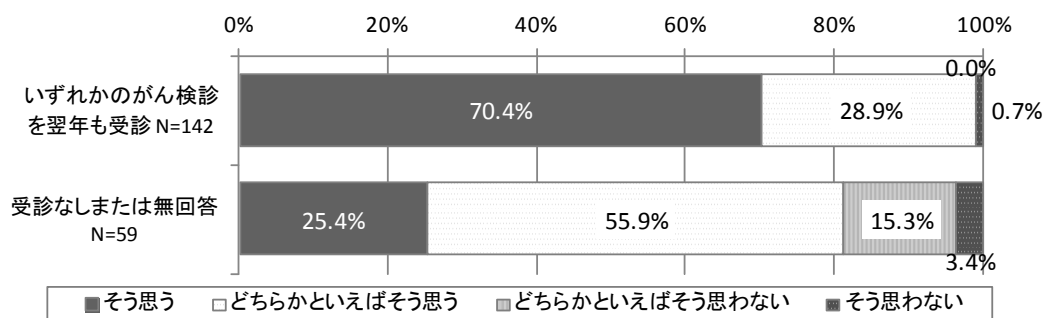
○問 4 より「無料クーポン券利用後の検診の継続受診」別で見ると、「市の検診が無料だったら」、「医療機関でも市の検診が受けられれば」、「職場の検診の項目に盛り込まれていれば」という項目で、5 ポイント程度の差で「いずれの検診も翌年は受診しなかった方、または翌年の受診について無回答」の方の方が高くなっている。

【問6】今後も定期的にがん検診を受けようと思いますか。

【全体】



【問4より「無料クーポン券利用後の検診の継続受診」別】

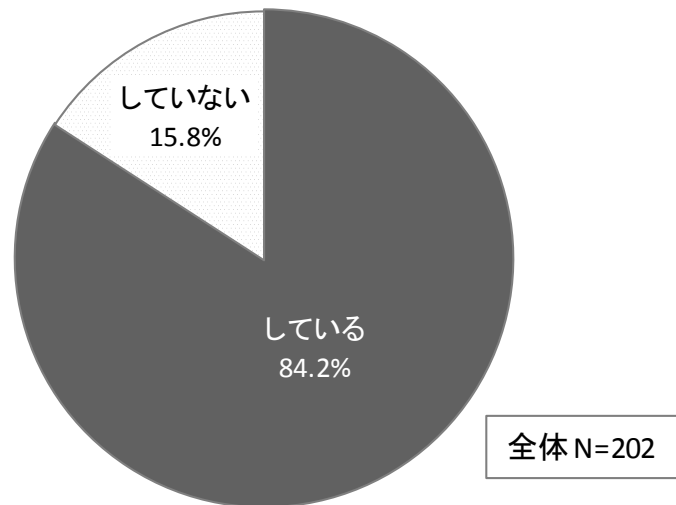


○全体では、「受けようと思う」と回答した方が57.2%で最も多く、次に「どちらかといえば受けようと思う」と回答した方が36.8%となっている。

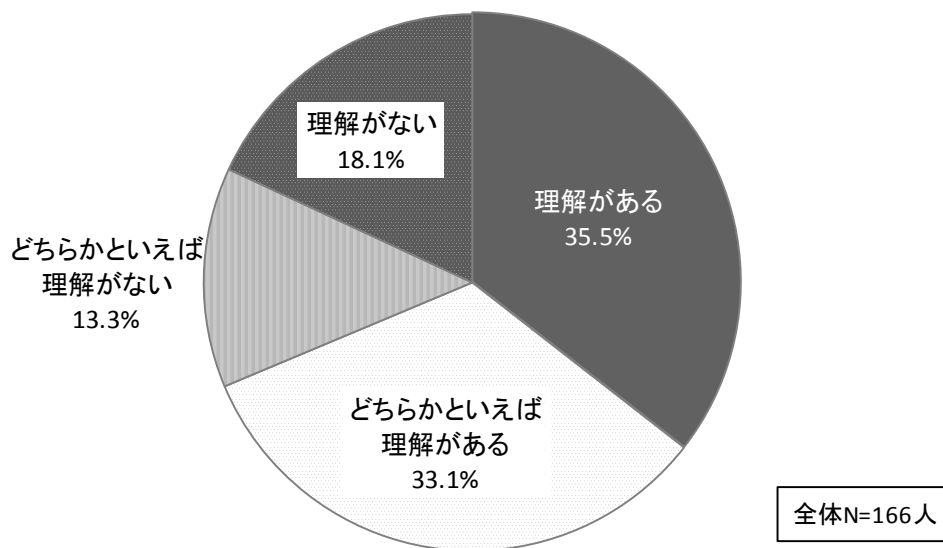
○本調査の対象者（H27、H28に無料クーポン券でがん検診を受診した方）においては、「受けようと思う」「どちらかといえば受けようと思う」を合わせると、94.0%の方が今後も受ける可能性が高い結果となっている。

○問4より、無料クーポン券利用後のがん検診の継続受診別で見ると、無料クーポン券での受診後もいずれかのがん検診を継続して受診している方では、今後も定期的ながん検診を受けようと思う方が70.4%、無料クーポン券での受診後いずれかのがん検診受診できていない方（無回答含む）では、25.4%となっており、45ポイントの差がある。がん検診を継続して受診している方では、「どちらかといえばそう思う」方と「そう思う」方と合わせると99.3%の方に、今後の定期的ながん検診の受診が期待される。

【問7】 現在仕事をしていますか。

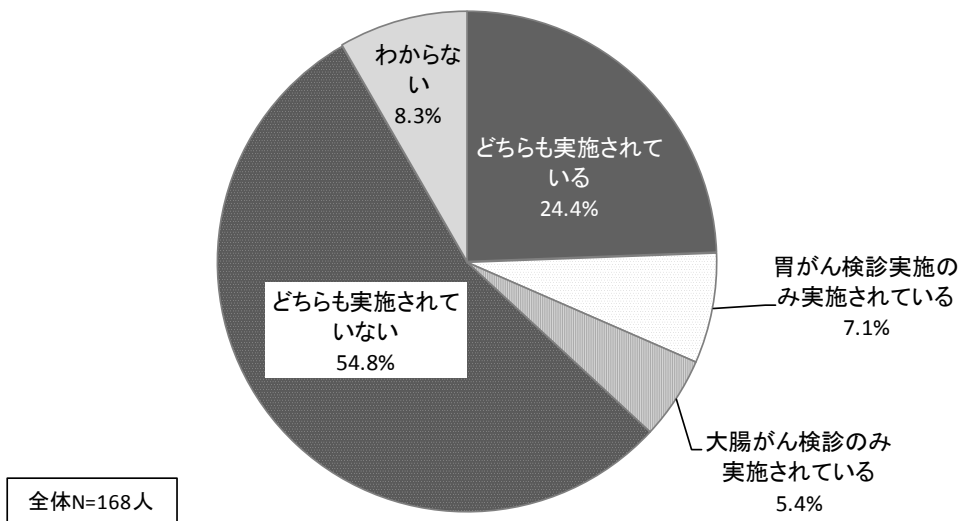


【問7-1】 あなたの職場は、がん検診受診のための休暇取得について理解がありますか。
(問7で仕事をしていると回答した方)



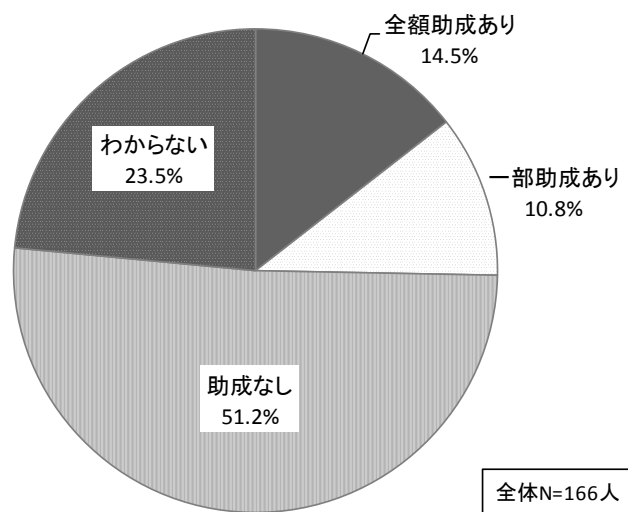
- 「理解がある」が最も多く 35.5%、「どちらかといえば理解がある」が次に多く 33.1%となっている。
- 「理解がある」、「どちらかといえば理解がある」と回答した方は合わせると 68.6%となっており、7割近くの方が、がん検診での休暇取得について職場の理解があると感じられている。

【問7-2】あなたの職場では、職場の検診として「胃がん検診」「大腸がん検診」が実施されていますか。（問7で仕事をしていると回答した方）



- 「どちらも実施されていない」が最も多く 54.8%、「どちらも実施されている」が次に多く 24.4%となっている。

【問7-3】あなたの職場では、がん検診の受診費用の助成はありますか。（問7で仕事をしていると回答した方）



- 「助成なし」と回答した方が 51.2%で最も多く、半数以上の職場でがん検診に対する助成がない。
- 「わからない」と回答した方は二番目に多く 23.5%で、四分の一程度の方が自社の助成を知らない。

【問 8】市で行っている「がん対策」へのご意見やご要望をご記入ください。（自由記述）

検診料やがん検診無料クーポン券について

- 仕事をしていないので、市の方から検診の無料や補助があれば助かるから、検診を受けやすいと思う。（仕事なし／女性）
- 無料クーポンはありがたい。検診を受けるきっかけになる。毎年あると行く気になる。（仕事なし／女性）
- 今後も無料で受けられると良い。（仕事なし／女性）
- 市の検診が安かったらもっと受ける人が増えると思う。（仕事なし／女性）
- 非常によい。特に個人宅への通知や無料クーポンなどきっかけ作りになると思う。（仕事あり／男性）
- 今まで医者にかかったことがなかったが、初めて入院して検診を受けようという気になった。健康に対して自信があるうちは、なかなか検診に対して積極的になれないと思う。（仕事あり／男性）
- 今後も無料クーポンがあれば受診を継続できるので続けてほしい。（仕事あり／女性）
- 無料クーポンの通知が来ることで受診する機会が増えるからありがたい。（仕事あり／女性）
- 無料クーポンでできる検診が増えれば検診を受ける人も増えると思う。（仕事あり／女性）
- 費用を安くしてほしい。あれこれ受けると子育て家庭では金額が大きくなり無理。（仕事あり／女性）
- 花火に税金を使うのではなく、こういうことに税金を使ってください。（仕事あり／男性）
- 無料クーポンはありがたい。（仕事あり／女性）
- 無料クーポンをもらおうと受けてみようかなと思うから、できればガン検診を無料にしてもらいたい。一律 500 円でもいいので。（仕事あり／女性）
- 子育て世代は子どもに多額のお金が掛かるため自分の健康管理にまで手が回らないので、各検診の無料化を希望する。ひとり親の場合も負担が大きいため、検診無料等の特典があればいいと思う。（仕事あり／女性）
- 無料なら助かる。受けたと思う。（仕事あり／女性）
- 大仙市は、他の市町村に比べれば健康福祉に関しての助成は手厚いと思う。（仕事あり／女性）
- クーポン券は検診を受けるきっかけになりありがたい。婦人科系の検診は足が向きにくいから、これからも婦人科系のさらなるクーポン等の充実を期待する。（仕事あり／女性）
- 検診が無料なのありがたい。（仕事あり／女性）
- 子宮ガン検診の際、初めてのときは大仙市外の病院でも良かったのに次の年はだめだった。市外の病院でも使えると便利。（仕事あり／女性）

検診について

- 乳がん検診はマンモグラフィーのみでは不十分。触診または超音波とセットにした方がいい。異常なしというはぎをもらってから、半年も経たないうちに自ら触診でしこりを見つけガンが見つかった。（仕事なし／女性）
- 医療機関で受けられる検診の項目が増えれば助かる。市の検診は日にちが決まっているので、その日に受けられないと行くのをやめる。（仕事なし／女性）
- 子どもがいると受診に行けない場合があるので、子どもを連れて受診が出来るようにしてほしい。（仕事なし／女性）
- 毎年通知が届くので受けてみようという気になる。職場は健康診断などもないため助かる。ただ、仕事などで都合が付けづらいときがある。（仕事あり／女性）

- 働いていると休みが取りづらい。日曜休みなら小病院はやってないし、予約と言っても平日は時間通りに受けられないので、市の検診は、日曜でも対応しているところがあるので助かる。(仕事あり／女性)
- 骨密度や血管年齢などもわかれば健康につながる。(仕事あり／女性)
- 去年子宮ガン検診をバスで受け、早くてよかったが、知らない人と2人で下着を脱ぐのは恥ずかしい。(仕事あり／女性)
- 日曜検診を増やしてほしい。(仕事あり／女性)
- 待ち時間が長い。(仕事あり／男性)
- もっと働いている人が検診を受けやすいといいと思う。受けたくても平日ばかりで日曜日だと混んでいて大変。(仕事あり／女性)
- 乳がん検診を平日の夕方からでもしてもらえると仕事を休まず受診できるからありがたい。休日は子どものスポ少などがあり、なかなか行けない。(仕事あり／女性)
- ガン検診の対象を40歳より前にすべきだと思う。(仕事あり／男性)
- もっと積極的にお願いしたい。できれば夕方から夜(仕事あり／女性)
- がん検診をおこなっていただいてありがたいが、男女別にやってほしい。下着姿に近い格好で同じところで待っているのがすごく嫌。せめて1日だけでも男女別の検診日を設けてほしい。(仕事あり／男性)
- 医療機関で受けたいが、期間が短い。翌年3月までとかにしてほしい。乳がん検診の無料の案内を何度ももらっているが、毎年検診に行っている時期が異なるため、自費で、使用したことがない。(仕事あり／女性)
- 毎回混んで待ち時間が苦痛。一回心電図を忘れられて終わって後にまた呼び出されたので確認してほしい。(仕事あり／男性)
- 休日にも検診を実施してほしい。無料項目を増やしてほしい。(仕事あり／女性)
- 胃ガン検診をバリウムではなく、胃カメラにしてほしい。乳がん検診に視触診、超音波の加えてほしい。(仕事あり／女性)
- 若い人(40歳)がほとんどいないような気がする。(仕事あり／男性)
- 1年に1度定期的に検診を受けることで安心できる。(仕事あり／女性)
- 日曜検診を増やしてほしい。(仕事あり／女性)
- 胃、肺、大腸だけでなく全身わかるような検診を希望。(仕事あり／女性)
- 混雑するのが本当に嫌。(仕事あり／女性)

その他

- 高齢者になってから検診の必要性を知るのでは遅いから、若い世代から検診を受けようという取組があればいいと思う。(仕事あり／女性)
- ガン対策事業を知らない人が多いから、認知活動を広げてほしい。(仕事あり／男性)
- 夫に肺がんが見つかった。昨年の市の検診では異常が無かったから、少し昨年の検診の結果を疑問に思う。検診結果で異常がなくても、体調不良のときはすぐに受診してください。という広報やパンフレットがあればいい。(仕事あり／女性)
- 検診も重要だが、ガンになりにくい食生活等の情報発信、対策をもっと増やすといいと思う。(仕事あり／女性)
- 生活習慣、食事の見直し、検診による早期の発見など、旧市町村ごとに対応または活動推進に温度差があると思うので、若年層から高年層まで幅広くガン対策への意識レベルを高める活動を実施してほしい。(仕事あり／男性)

- 小さいときから、成人病・喫煙・塩分のリスクを強く促す。(仕事あり／男性)
- 感謝している。(仕事あり／女性)

◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

○今回調査した、無料クーポン券を利用してがん検診を受診した方のうち、「無料券の受領前は受けるつもりがなかった」、「受診に迷いがあった方」は合わせると7割となっており、がん検診無料クーポン券が、受診行動への大きな後押しとなっていたことがわかった。

また、無料クーポン券を利用して受診した方が、次年度も胃がん・大腸がんいずれかの検診を引き続き受診した方は7割で、無料クーポン券を受領する前には受診するつもりはなかった方でも、次年度には6割弱の方がいずれかの検診を受診している。このことから、無料クーポン券を利用して受診した次年度、検診料金が負担となっても継続的に受診する契機となり得ることも確認ができ、無料クーポン券配布が果たす効果は大きいと考える。

○一方で、無料クーポン券を利用したが、翌年受診行動に結びつかなかった割合は、胃がん検診では3割、大腸がんでは2割であった。「検診年齢が40歳以上であることを何となく知っていた」または「無料券が届いて初めて知った」方ほど継続的な受診行動には結びついていない。

また、問2では、検診の対象年齢が40歳以上であることを既に知っていた方ほど、無料クーポン券が届く前からがん検診を受診する予定だった割合が多かった。

さらに、無料クーポン券を利用した翌年、がん検診を受診できなかった理由として、「日程が合わなかった」に並んで「特に体調が悪くないから」が最も多くなっていることを考慮すると、がん検診は自覚症状のない人のためにある、ということが浸透していないと考えられる。

このことから、40歳になってから、検診対象年齢であることをお知らせすることも必要だが、40歳前からのがん検診に関する啓発、がん検診に対する正確な理解を得てもらうための、さらなる情報発信が必要であることを改めて受け止め、今後、どの場面を活用して、効果的に啓発していけるか検討していく。

○がん検診を受診する「働きかけ」となるものについては、「市の検診が無料であれば」という回答が約8割で最も多くなっており、無料クーポン券を利用した翌年に受診しなかった方の理由でも、「検診費用が無料でないから」と回答した方は2割を超えている。

一方で、継続してがん検診を受けている理由(問2-1)として、「市のがん検診料金の自己負担額が安いから」という回答は三番目に多く3割を超えており、今後も定期的ながん検診を受けようと思う(問6)割合も9割を超えている。

現在、市が実施する検診の受診料については、検診を実施するために必要な費用に対して約1/3の自己負担(胃がん1,200円、大腸がん600円)で受診できるため、市の検診における自己負担額の安さについてもわかりやすく説明して理解を得たいと考える。

○次年度継続して受診できなかった理由として、「検診日程に都合がつかなかった」が最も多かった。これまでも、日曜の検診日を設けたり、他のがん検診と共に行っていた大腸がん検診については待ち時間を考慮して大腸がん検診単独の日を設けるなどして、受診しやすい環境づくりに努めており、胃がん検診では年間80日前後、大腸がん検診は年間87日前後の受診可能な日を設定している。受診率向上と継続受診の体制整備のため、今後も受診者の利便性を考慮しつつ、検診の日程や周知方法について検討していく。